



大田区地域福祉計画実態調査 報告書

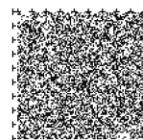


©Ota City



令和 5 年 3 月

大田区



目 次

第1章 アンケート調査の実施概要	1
1 調査目的	2
2 調査対象	2
3 調査方法・期間	2
4 回収結果	2
5 調査内容	3
6 報告書の見方	3
第2章 アンケート調査の主な結果	5
1 回答者の分布について	6
2 区民の悩みや不安・困りごとについて	8
3 他者とのつながり状況について	10
4 区民における地域の中での支え合いについて	12
5 区民における社会参加の状況	14
6 活動団体における他団体との連携状況について	18
7 ICTの活用状況と情報取得について	20
8 区民における将来の生活に対する備えについて	22
9 大田区の地域福祉施策について	24
第3章 アンケート調査の集計結果	27
1 区民を対象とした調査の集計結果	28
2 地域団体を対象とした調査の集計結果	43
第4章 ヒアリング調査	53
1 目的	54
2 ヒアリングへの協力者	54
3 方法・期間	54
4 主な内容	55
第5章 実態調査の結果に基づく次期計画策定に向けた考え	63
第6章 調査票	67
1 区民を対象とした調査票	68
2 地域団体を対象とした調査票	80

第1章 アンケート調査の実施概要

1 調査目的

大田区では、区民が平時はもとより災害時においても、地域社会の一員として、安心して、その人らしく、充実した生活が送れるように、「大田区地域福祉計画」を策定して体系的に関係施策を展開している。

令和5年度での同計画の見直しを控え、日頃の地域との関わりや区の地域福祉政策などに対する区民の意識や実態、地域福祉に関わりのある区内地域団体の活動状況やニーズを把握することを目的に本調査を実施した。

2 調査対象

調査名称	調査対象者
区民	・大田区在住の18歳以上の区民（令和4年10月1日時点） ※無作為抽出
地域団体	・大田区内の以下の組織・団体 ①自治会・町会 ②民生委員児童委員協議会 ③ボランティア団体 ④社会福祉法人 ⑤区民活動団体 ⑥地域福祉に係る取組をしている民間企業

3 調査方法・期間

- 1 調査方法 郵送により配付、郵送又はWEBにより回収
- 2 調査期間 令和4年11月16日（水）～12月2日（金）

4 回収結果

調査名称	配付数	有効調査数	有効回答数	有効回答率
区民	3,000件	2,987件	1,129件 (内訳) ・郵送 722件 ・WEB 407件	37.8%
地域団体	872件	792件	569件 (内訳) ・郵送 415件 ・WEB 154件	71.8%

5 調査内容

調査名称	調査内容
区民	1 回答者自身のことについて 2 人とのつながりや近所づきあいについて 3 地域活動やボランティア活動について 4 安全・安心な地域づくりについて 5 将来の生活について 6 区の地域福祉施策について
地域団体	1 団体概要について 2 活動状況について 3 困っていることや連携状況について 4 地域福祉活動の活性化に必要なことについて

6 報告書の見方

- 1 図表内の「n」とは、該当の設問における回答者数のことである。
- 2 集計は百分率（％）で小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表記しているため、数値の合計が100.0%にならない場合がある。
- 3 複数回答が可能な設問の場合、回答比率の合計が100.0%を超える場合がある。
- 4 本文や図表における選択肢の表記は、場合により、文言を一部簡略化している。
- 5 図表の数値のうち、着目すべき点については、文字サイズを大きくする等、目立つように記載している場合がある。
- 6 第2章の分析内容において、“ ”でくくっている文言は、選択肢をまとめた表現またはクロス集計の分析軸となる選択肢を指す。

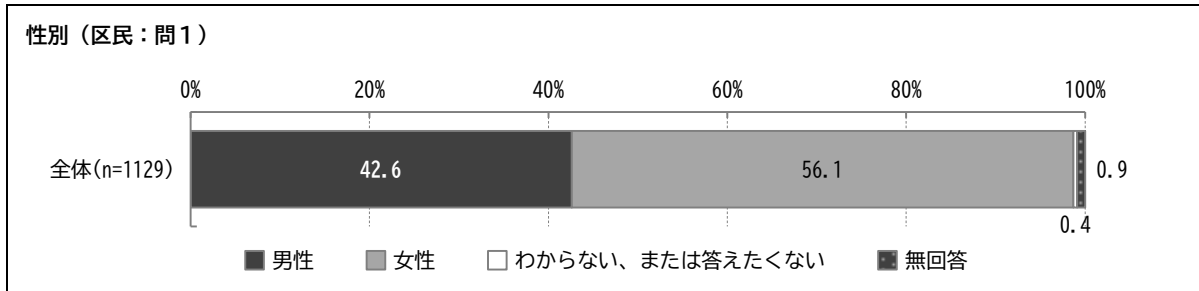
第2章 アンケート調査の主な結果

1 回答者の分布について

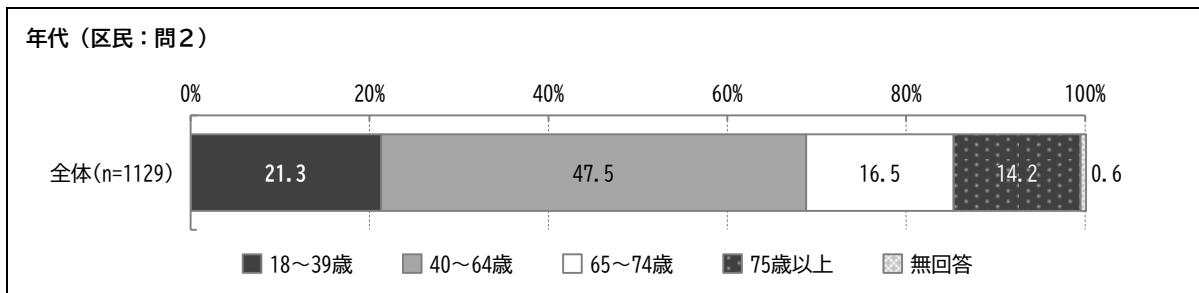
本調査の区民の属性及び地域団体の種別は以下のとおりである。

区民向け調査

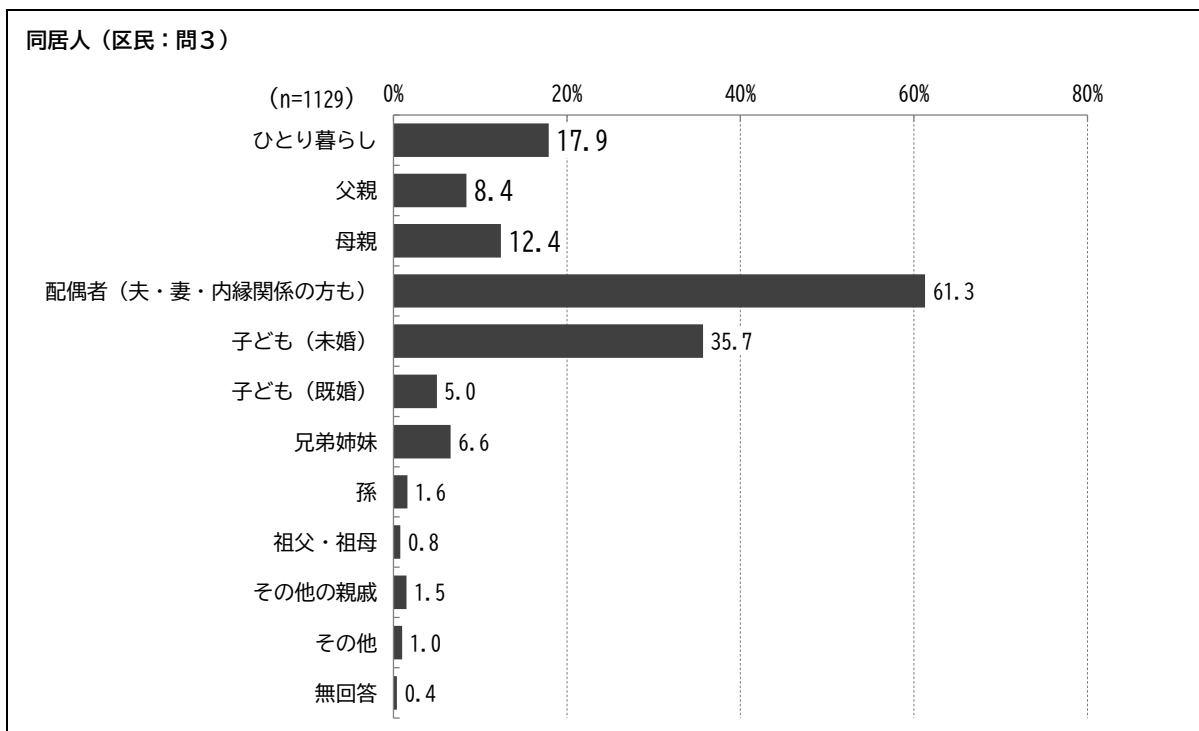
①性別



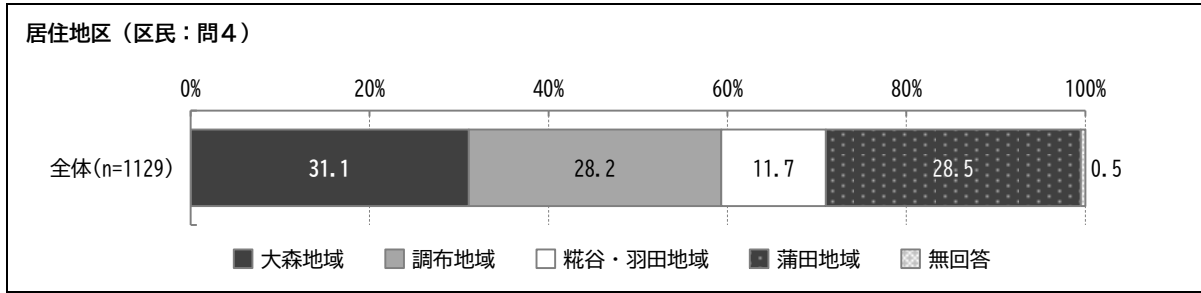
②年代



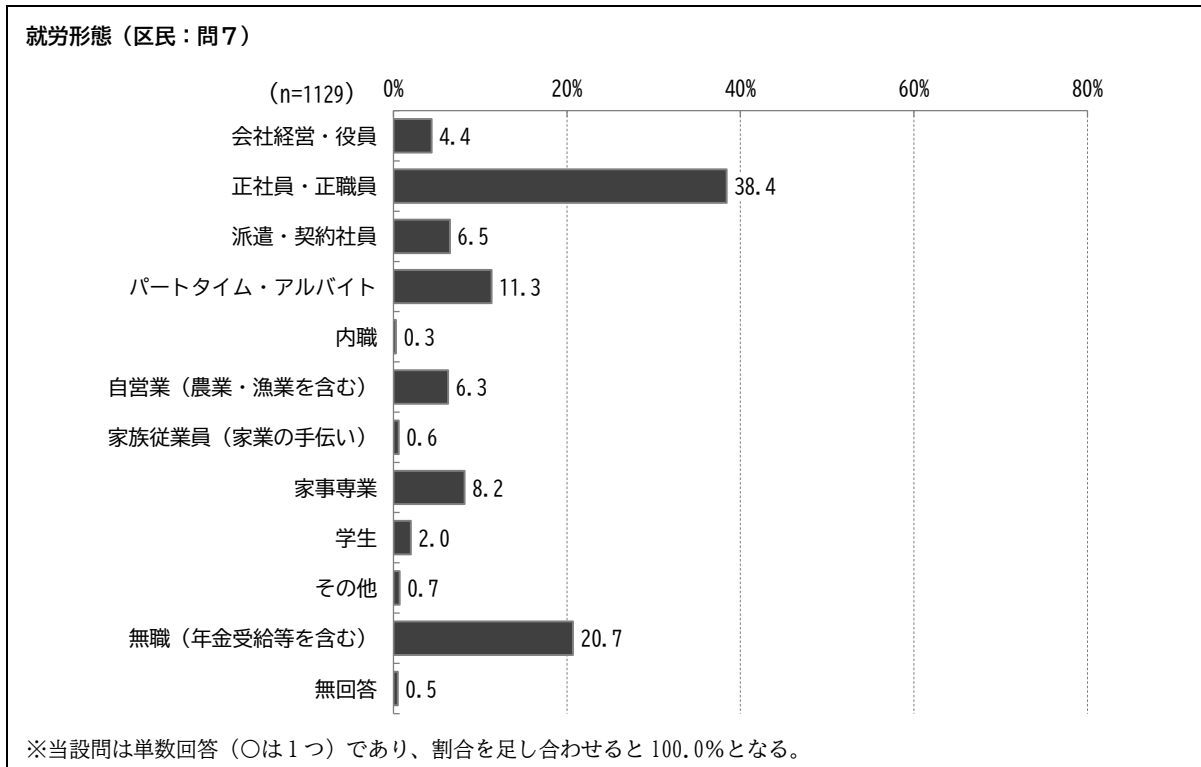
③同居人



④居住地区

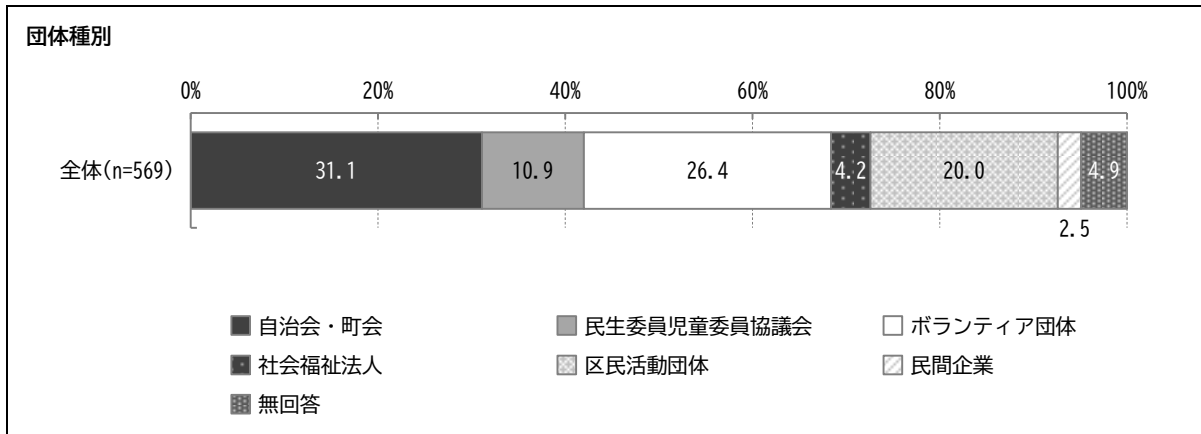


⑤就労形態



地域団体向け調査

①団体種別



2 区民の悩みや不安・困りごとについて

該当調査：【区民】【団体】

- ① 自分自身や家族の健康、特に若年層は収入や仕事のことに関りごとを抱えている人が多く、5割以上の方が複数の悩みを抱えていることがわかる【区民】
- ② 家族や友人など身近な人を相談先としてあげている人が、区の窓口や専門機関よりも多い【区民】
- ③ 困りごとを相談しやすくなる対応や工夫として「メール・SNS等の対応」「一本化された窓口」「自宅近く」をあげている人が多く、より気軽な、または簡便な方法で相談できる窓口が求められている【区民】
- ④ 区民から生活上の相談を受けた経験がある地域団体は半数以上で、区民からの相談の受け皿になっていることがうかがえる【団体】

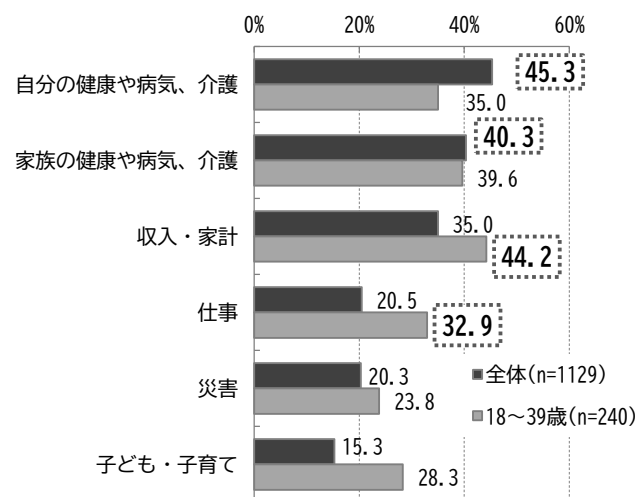
区民向け調査

①日常生活を送る上での悩み等

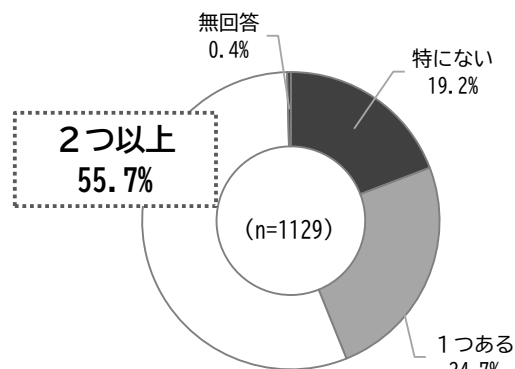
日常生活を送る上での悩みや不安・困りごとについて、全体では「自分の健康や病気、介護」(45.3%)が最多、「家族の健康や病気、介護」(40.3%)、「収入・家計」(35.0%)、「仕事」(20.5%)と続く。年代別では“18～39歳”の「仕事」(32.9%)と「子ども・子育て」(28.3%)が全体と比べて多く、若年層の悩みごとの特徴とうかがえる。

感じている悩みごとの数を集計すると、「2つ以上」と回答した区民は55.7%となっている。

日常生活を送る上での悩みや不安・困りごと（区民：問20 一部抜粋）
（年代別のクロス集計、全体と18～39歳のみ抜粋）



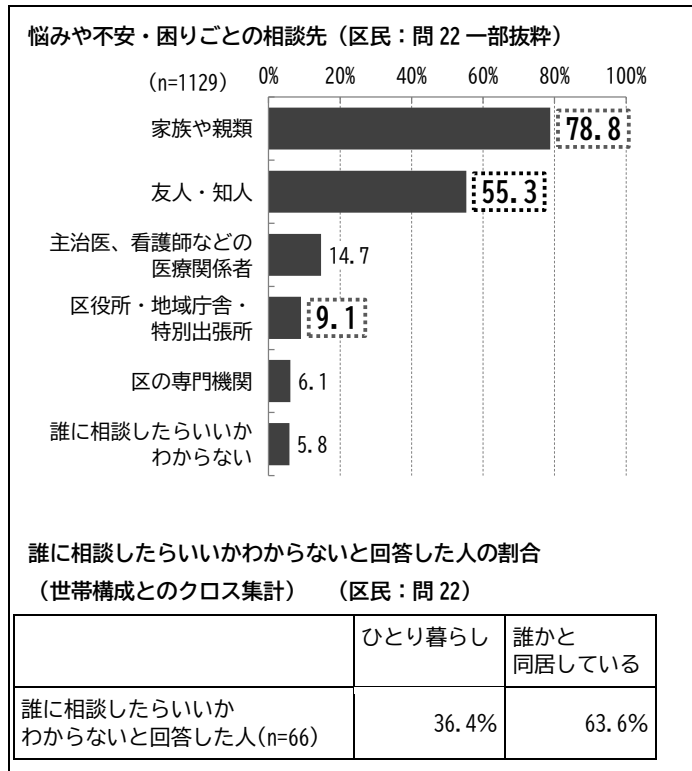
感じている悩みごとの数（区民：問20）



②悩みや不安・困りごとの相談先

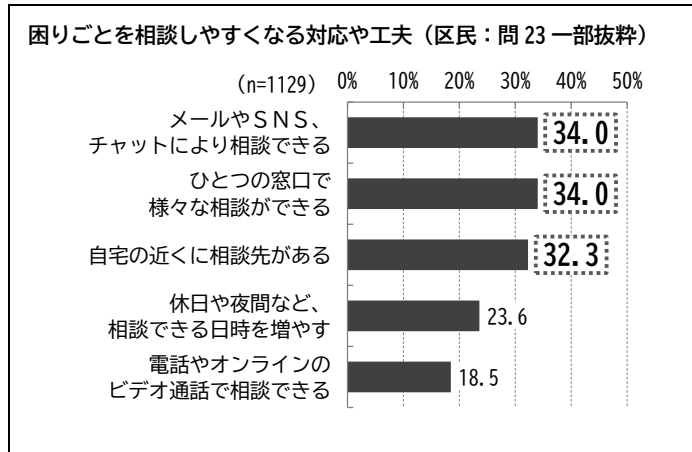
悩みや不安・困りごとの相談先について、全体では「家族や親類」(78.8%)が最多、「友人・知人」(55.3%)と続き、区の窓口や専門機関よりも、身近な人を相談先としている方が多い。

また、「誰に相談したらいいかわからない」と回答した人の割合に着目すると、区民全体では5.8%となっている。



③困りごとを相談しやすくなる対応や工夫

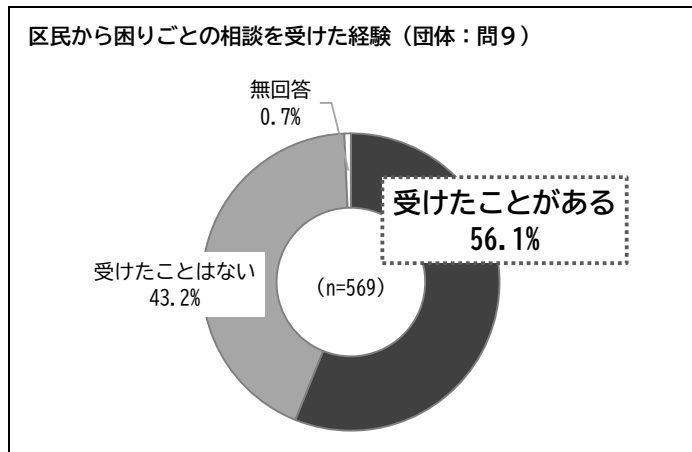
区民が悩みや不安・困りごとを感じた時に相談しやすくなる対応や工夫について、全体では「メールやSNS、チャットにより相談できる」と「ひとつの窓口で様々な相談ができる」(34.0%)が最多、「自宅の近くに相談先がある」(32.3%)と続く。



地域団体向け調査

④区民から困りごとの相談を受けた経験

活動に参加している区民から生活上の困りごとの相談を受けた経験について、全体では「受けたことがある」は56.1%、「受けたことはない」が43.2%となっている。



3 他者とのつながり状況について

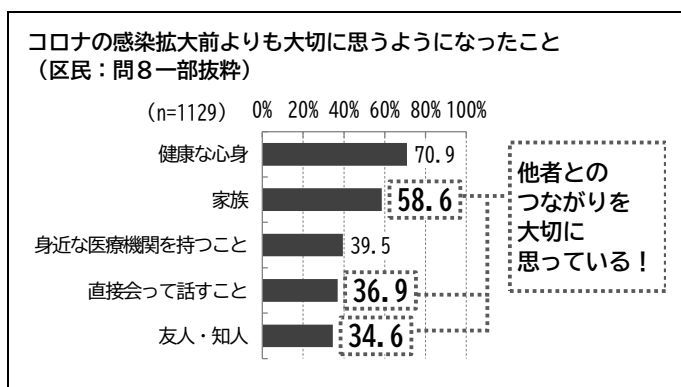
該当調査：【区民】【団体】

- ① コロナの感染拡大前と比べて家族や友人等の存在や対面での会話をより一層大切に思うようになった人が多く、他者とのつながりに対する重要性の認識が強くなっていることがうかがえる【区民】
- ② 現在の暮らしにおける近所づきあいはあいさつをする程度の人が多い一方、今後の希望としては立ち話をする程度の近所づきあいを望む人が多く、近所づきあいを深めたいと考えている人が一定程度いることがうかがえる【区民】
- ③ 自宅以外で居心地のよい場所として趣味・余暇活動の場をあげている人が多い一方、インターネット空間をあげている人が1割強認められ、居場所の捉え方も多様化している【区民】
- ④ 「家族や友人等と話す頻度が高い」人や、「自宅以外で居心地のよい場所がある」人は社会からの孤立を感じる人が少ないことから、孤立感を生まないようにするためには他者との対話の機会や居心地のよい場所が重要と考えられる【区民】
- ⑤ 地域の居場所の提供となる取り組みに対して興味・関心がある団体は約8割となっており、居心地のよい場所がない区民の受け皿として期待できる【団体】

区民向け調査

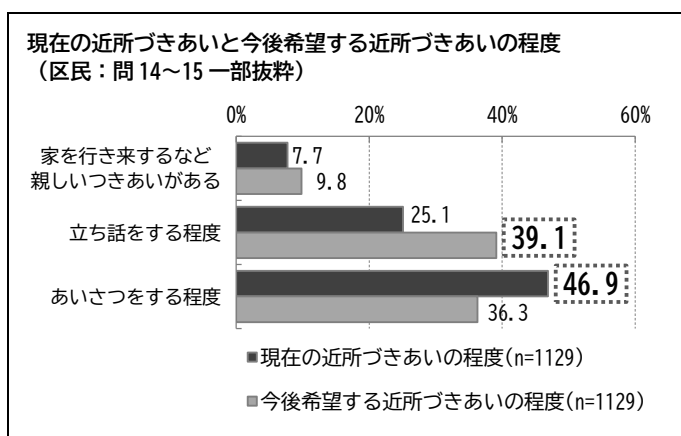
① コロナの感染拡大前よりも大切に思うようになったこと

コロナの感染拡大前よりも大切に思うようになったことについて、「健康な心身の大切さ」(70.9%)が最多、「家族の大切さ」(58.6%)、「身近な医療機関を持つことの大切さ」(39.5%)、「直接会って話すことの大切さ」(36.9%)、「友人・知人の大切さ」(34.6%)と続く。



② 現在の近所づきあいと今後希望する近所づきあいの程度

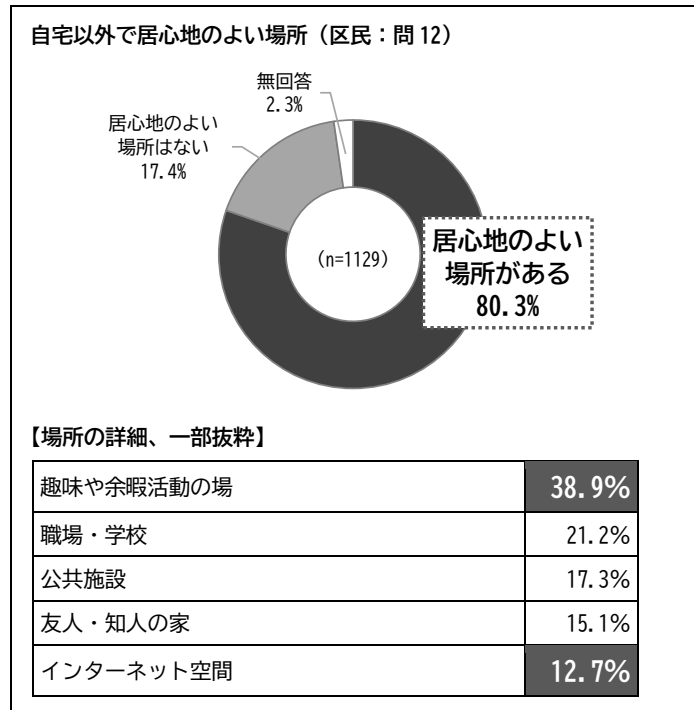
現在の近所づきあいの程度について、「あいさつをする程度」(46.9%)が最多、「立ち話をする程度」(39.1%)と続く。一方、今後希望する近所づきあいの程度について、「立ち話をする程度」(39.1%)が最多、「あいさつをする程度」(36.3%)と続く。



③自宅以外で居心地のよい場所

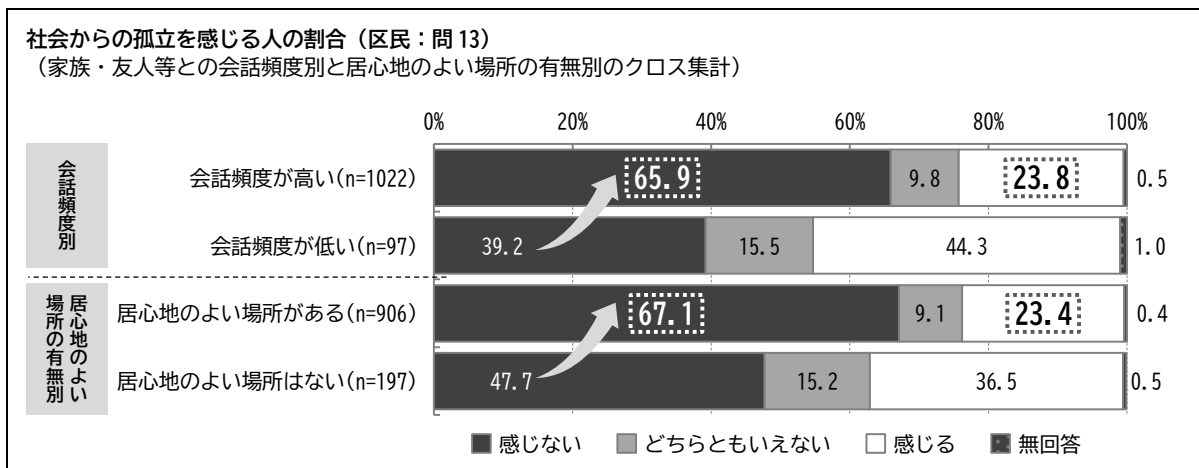
自宅以外で居心地のよい場所について、全体では“居心地のよい場所がある”（100%から「居心地のよい場所はない」「無回答」を除く）は80.3%、「居心地のよい場所はない」は17.4%となっている。

居心地のよい場所について、具体的には「趣味や余暇活動の場」（38.9%）が最多、「職場・学校」（21.2%）、「公共施設（図書館、公園等）」（17.3%）と続く。また、「インターネット空間」も12.7%となっており、居心地のよいと感じる場所にも多様性が見受けられる。



④社会からの孤立感

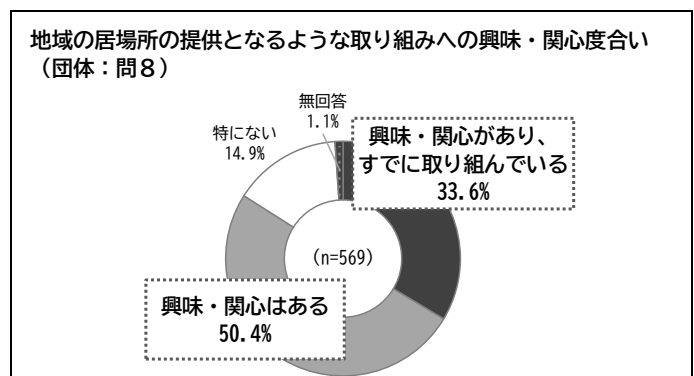
家族や友人等と話す頻度が高い人（週2～3日以上）と低い人（週1日以下）で会話頻度別に分類し、さらに自宅以外で居心地のよい場所の有無別で、社会からの孤立感の程度をみると、家族や友人等と話す頻度が高い人や、居心地のよい場所がある人は社会からの孤立を“感じない”（「全く感じない」「あまり感じない」の合計）人が多い。



地域団体向け調査

⑤地域の居場所の提供となる取り組みに対する興味・関心

地域の居場所の提供となる取り組みへの興味・関心について、全体では「興味・関心があり、すでに取り組んでいる」は33.6%、「興味・関心はある」が50.4%となっている。



4 区民における地域の中での支え合いについて

該当調査：【区民】

- ① 普段の生活で近隣住民を支えるために日頃からのコミュニケーションなど行動ができる人は8割で、大規模災害時に地域で声かけや支援できる人も8割強となっており、大田区には助け合いの基盤があることがうかがえる【区民】
- ② 区民全体と比べて、ひとり暮らしの人は災害時においても、「助けを求めない」「助けを求めることが出来ない」人が、多い傾向がある【区民】
- ③ 性別や年齢、障害、異なる国籍など、様々な特徴や個性を持つ人たちに対して自然に接することができる人の割合は、若年層では特に多く、多様性に対する抵抗感が少ないことがうかがえる【区民】

区民向け調査

①地域で支え合うためにできること

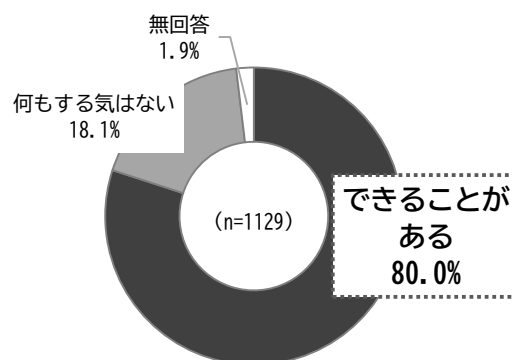
普段の生活で近隣の住民同士が支え合うためにできることについて、全体では“できることがある”(100%から「何もする気はない」「無回答」を除く)が80.0%、「何もする気はない」は18.1%となっている。

“できることがある”について、具体的には「近隣の方に積極的に挨拶をする」(61.4%)が最多、「近隣の方に日頃から積極的に声をかける」(17.2%)、「地域活動やボランティア活動へ参加する」(13.0%)と続く。

大規模災害時に地域で活動できることについて、全体では“活動ができる”(100%から「何もできない」「無回答」を除く)が83.9%、「何もできない」は14.9%となっている。

“活動ができる”について、具体的には「身近な人への声かけ・安否確認(連絡代行含む)」(54.4%)が最多、「地域の人たちと災害状況を共有すること」(50.1%)、「水や食料の提供・炊き出し等の協力」(39.2%)と続く。

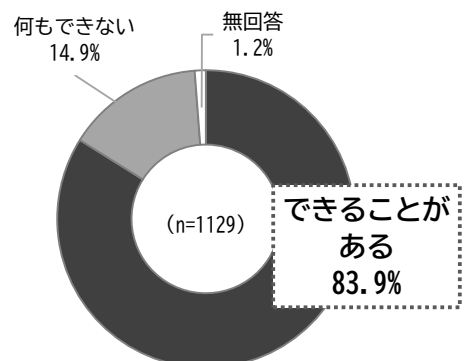
普段の生活で近隣の住民同士が自主的に支え合うために自分ができること (区民：問24)



【できることの詳細、一部抜粋】

近隣の方に積極的に挨拶をする	61.4%
近隣の方に日頃から積極的に声をかける	17.2%
地域活動やボランティア活動へ参加する	13.0%

大規模災害時に地域でできる活動 (区民：問28)



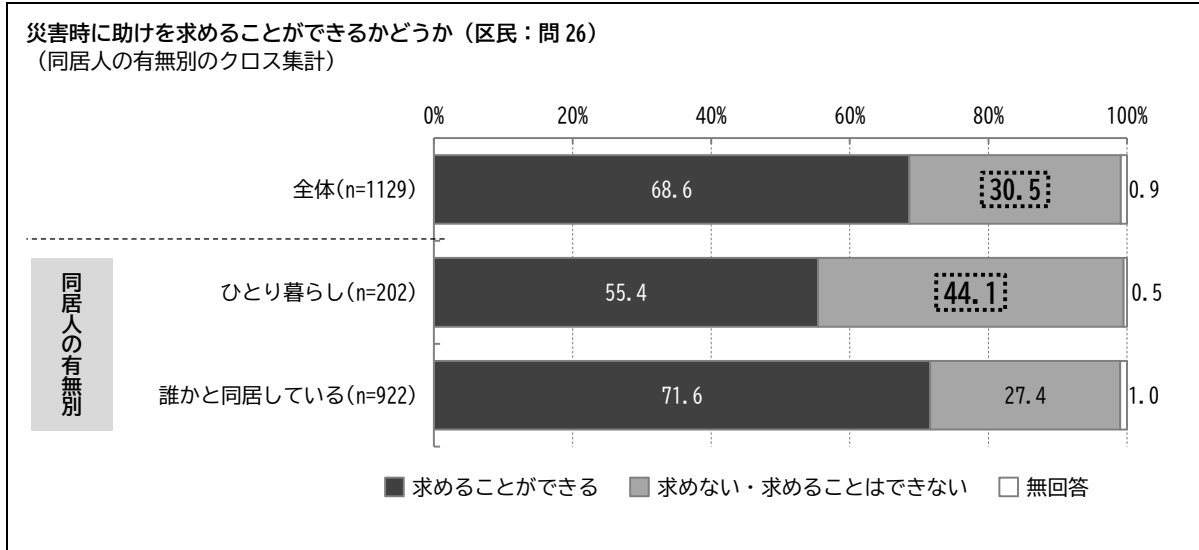
【できる活動の詳細、一部抜粋】

身近な人への声かけ・安否確認	54.4%
地域の人たちと災害状況を共有すること	50.1%
水や食料の提供・炊き出し等の協力	39.2%

②災害時に助けを求めることができるかどうか

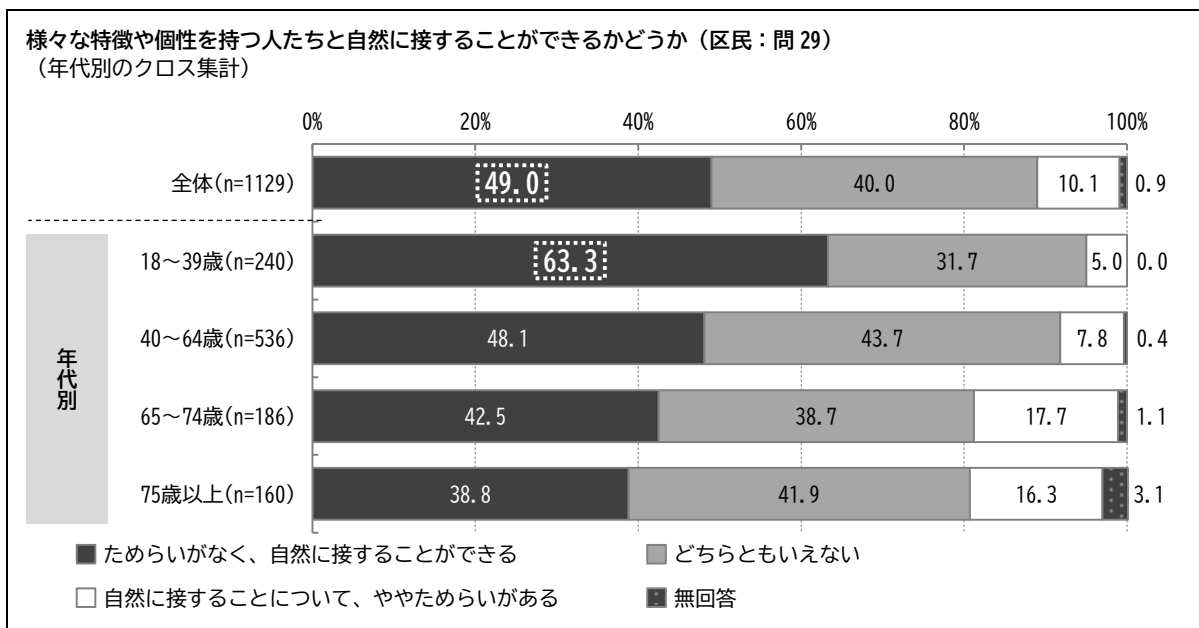
災害時に助けを求めることができるかどうかについて、全体では“求めることができる”（「求めることができる」「どちらかといえば求めることができる」の合計）が68.6%、“求めない・求めることはできない”（「求めないで自分で何とかする」「求めることはできない」の合計）が30.5%となっている。

同居人の有無別では、“ひとり暮らし”は“求めない・求めることはできない”（「求めないで自分で何とかする」「求めることはできない」の合計）が44.1%と全体と比べて多い。



③様々な特徴や個性を持つ人たちと自然に接することができるかどうか

性別や年齢、障害、異なる国籍など、様々な特徴や個性を持つ人たちと自然に接することができるかどうかについて、全体では「ためらいがなく、自然に接することができる」が49.0%となっている。年代別にみると、18～39歳の「ためらいがなく、自然に接することができる」は63.3%と全体と比べて多い。



5 区民における社会参加の状況

該当調査：【区民】【団体】

- ① 地域活動やボランティア活動の参加経験のある人となない人は約5割ずつと同程度【区民】
- ② 参加してみたい地域活動やボランティア活動では、文化・スポーツ振興に関わる活動をあげている人が多い【区民】
- ③ 地域活動やボランティア活動に参加したいと思う特徴について、「単発・短時間」「自宅近くでの参加」「一人でも参加できること」をあげている人が多く、気軽さや負担の少なさが重要とうかがえる【区民】
また、特徴によっては地域活動やボランティア活動に参加したいと思っている人は8割以上と多いため、特徴次第では活動への参加を促せる可能性がうかがえる【区民】
- ④ 地域活動やボランティア活動に参加したいと思うきっかけについて、「身近な人の誘い」「自分の家族と一緒に参加する」、「活動している団体から直接誘われる」、「職場から勧められる」をあげている人が多く、自身にとって身近な人からの後押しが重要だとうかがえる【区民】
- ⑤ 地域団体の活動に参加する人を増やすための工夫として、区民のニーズと同様に、「単発・短時間で参加できる機会をつくる」をあげている団体が多い【団体】
- ⑥ 地域団体の今後取り組んでみたい活動は、子どもと高齢者支援、社会教育をあげている団体が多く、社会教育に係る点は区民の参加ニーズと合っているとわかる【団体】

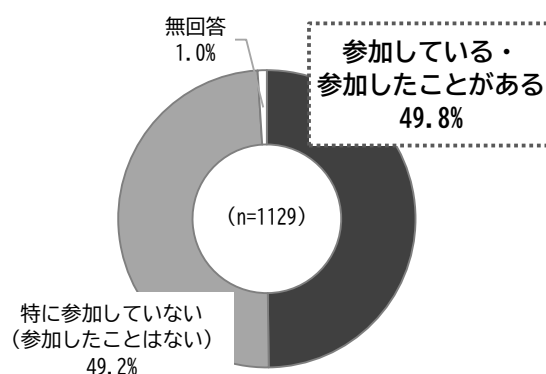
区民向け調査

①現在参加している、または過去に参加したことがある地域活動やボランティア活動

参加している・参加したことがある地域活動やボランティア活動について、全体では“参加している・参加したことがある”（100%から「特に参加していない（参加したことはない）」「無回答」を除く）が49.8%、「特に参加していない（参加したことはない）」は49.2%となっている。

“参加している・参加したことがある”について、具体的な活動としては「子ども会やPTAの活動」（22.6%）が最多、「自治会・町会での活動」（21.5%）、「お祭りなどの活動」（16.9%）と続く。

現在参加している、または過去に参加したことがある地域活動やボランティア活動（区民：問16）

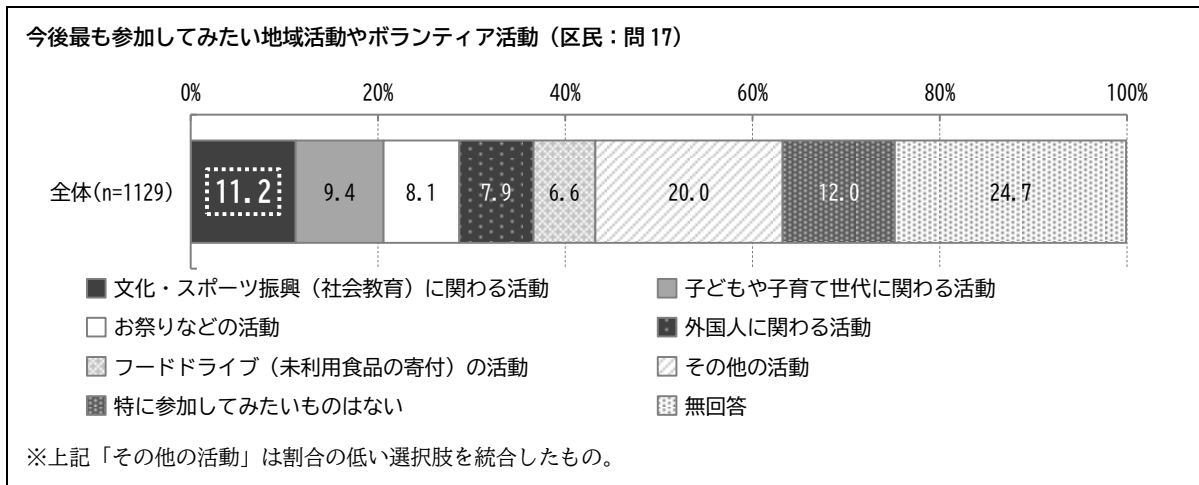


【参加している・参加したことがある人の活動の詳細、一部抜粋】

子ども会やPTAの活動	22.6%
自治会・町会での活動	21.5%
お祭りなどの活動	16.9%

②今後最も参加してみたい地域活動やボランティア活動

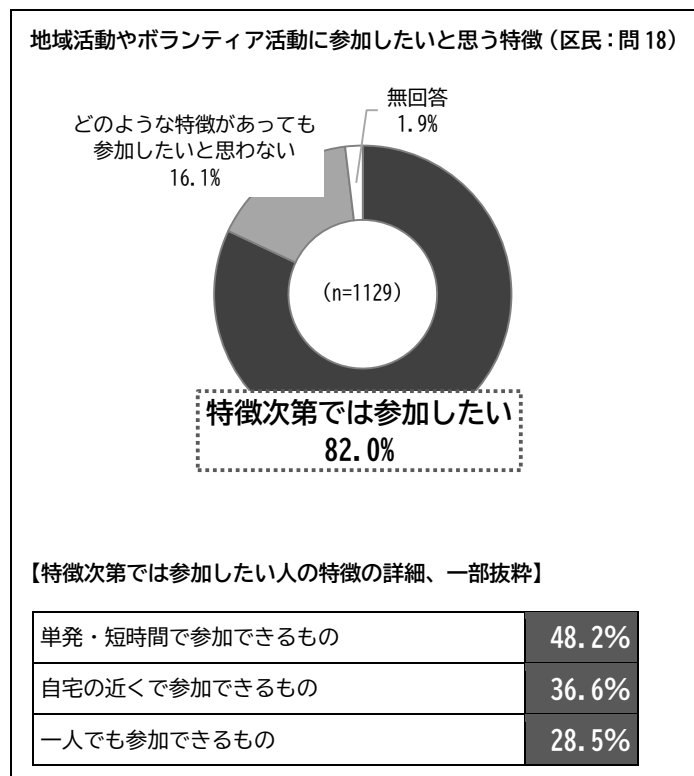
今後最も参加してみたい地域活動やボランティア活動について、全体では「特に参加してみたいものはない」(12.0%)を除くと、「文化・スポーツ振興(社会教育)に関わる活動」(11.2%)が最多、「子どもや子育て世代に関わる活動」(9.4%)、「お祭りなどの活動」(8.1%)と続く。



③地域活動やボランティア活動に参加したいと思う特徴

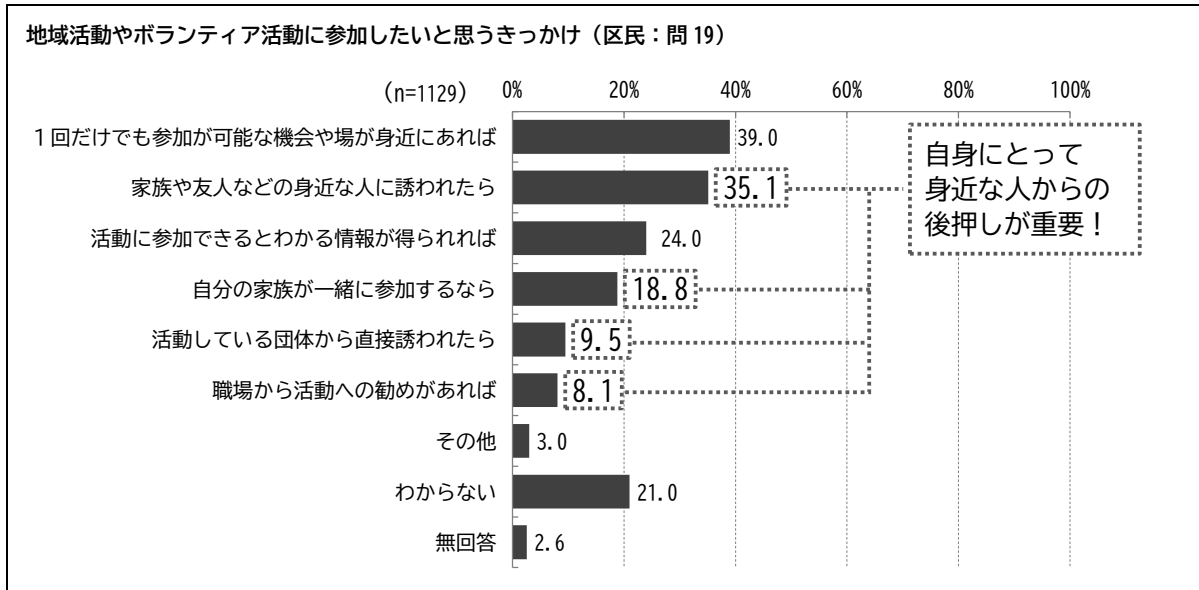
地域活動やボランティア活動に参加したいと思う特徴について、全体では“特徴次第では参加したい”(100%から「どのような特徴があっても参加したいと思わない」「無回答」を除く)が82.0%、「どのような特徴があっても参加したいと思わない」は16.1%となっている。

“特徴次第では参加したい”について、具体的な特徴としては「単発・短時間で参加できるもの」(48.2%)が最多、「自宅の近くで参加できるもの」(36.6%)、「一人でも参加できるもの」(28.5%)と続く。



④地域活動やボランティア活動に参加したいと思うきっかけ

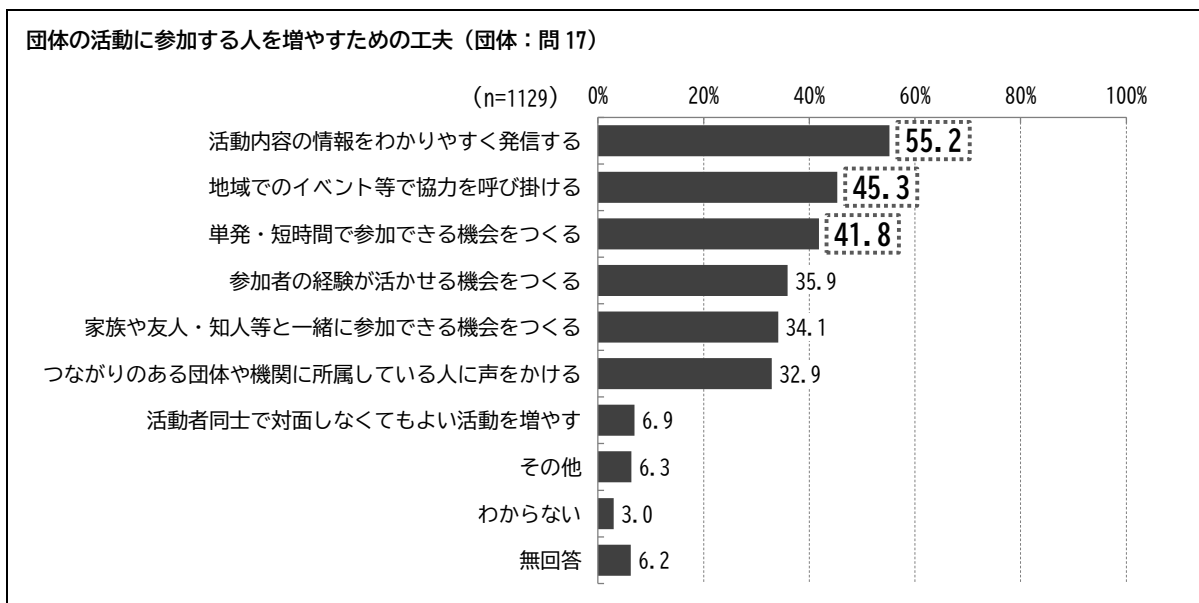
地域活動やボランティア活動に参加したいと思うきっかけについて、全体では「1回だけでも参加が可能な機会や場が身近にあれば」(39.0%)が最多、「家族や友人などの身近な人に誘われたら」(35.1%)、「活動に参加できるとわかる情報が得られれば」(24.0%)と続く。



地域団体向け調査

⑤団体の活動に参加する人を増やすための工夫

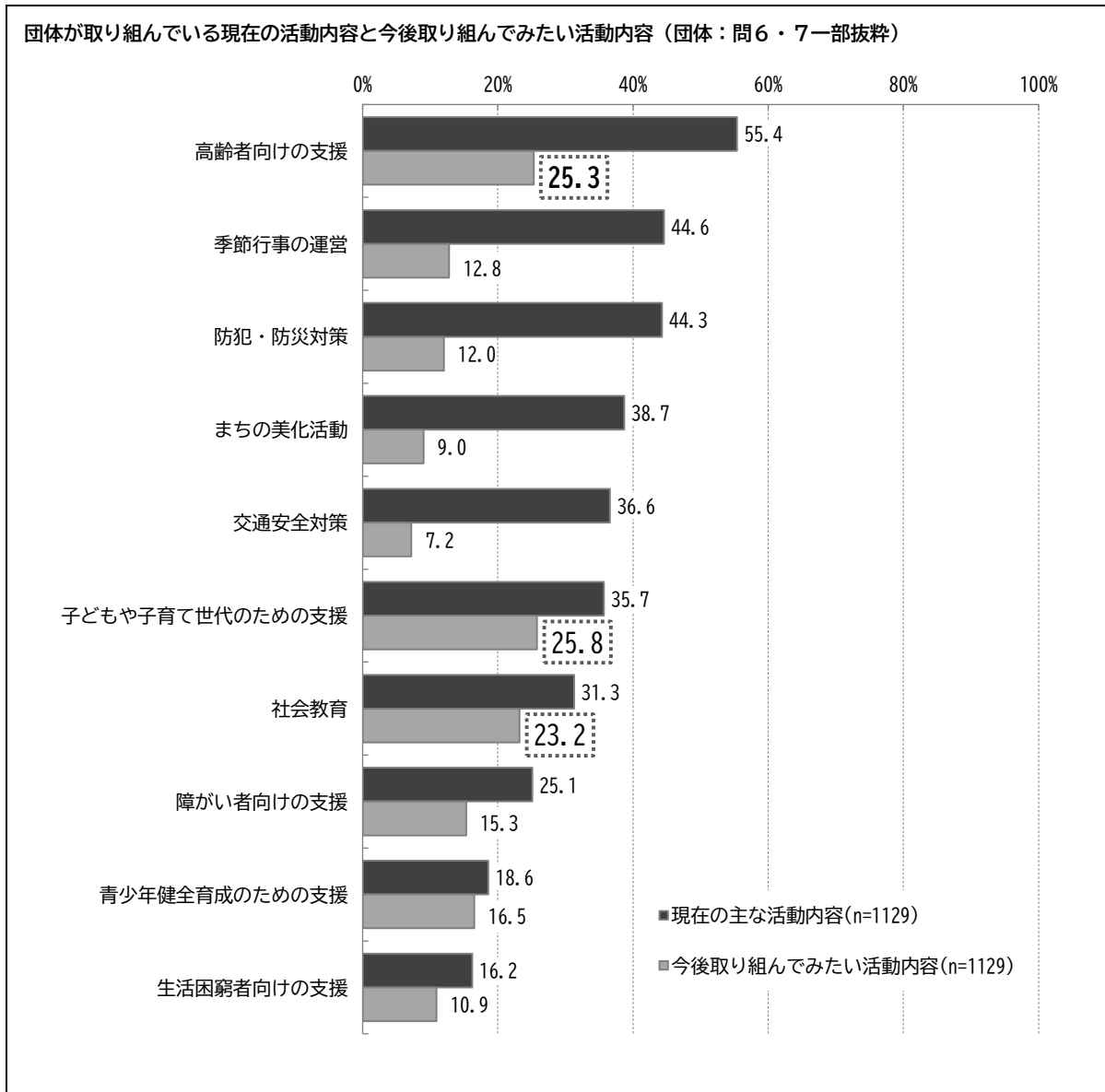
団体の活動に参加する人を増やすための工夫について、全体では「活動内容の情報をわかりやすく発信する」(55.2%)が最多、「地域でのイベント等で協力を呼び掛ける」(45.3%)、「単発・短時間で参加できる機会をつくる」(41.8%)と続く。



⑥地域団体の現在の主な活動内容と今後取り組んでみたい活動内容

地域団体の主な活動内容について、全体では「高齢者向けの支援（見守りや定期訪問、健康づくりなど）」（55.4%）が最多、「季節行事の運営（お祭りや伝統行事など）」（44.6%）、「防犯・防災対策（巡回パトロール、情報提供、避難訓練など）」（44.3%）と続く。

今後取り組んでみたい活動内容について、全体では「子どもや子育て世代のための支援（子育ての悩み相談、育児グループの支援、子どもの居場所の提供など）」（25.8%）が最多、「高齢者向けの支援（見守りや定期訪問、健康づくりなど）」（25.3%）、「社会教育（文化・スポーツ振興など）」（23.2%）と続く。



6 活動団体における他団体との連携状況について

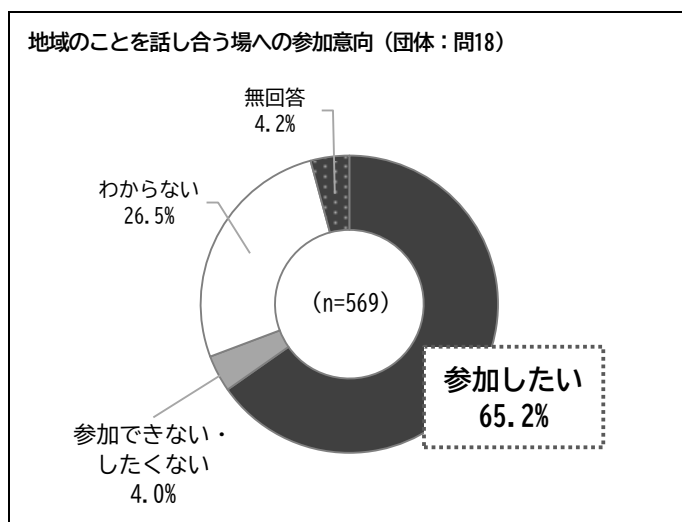
該当調査：【団体】

- ① 地域のことを話し合う場への参加意向に前向きな団体が6割半ばとなっており、参加の可能性があるとかがえる【団体】
- ② 地域団体が他団体と解決したいことは活動者の確保、高齢化、リーダー等の確保が多く、“人”に係る内容が多い【団体】
- ③ 今後連携・協力関係を深めたい相手として、どの種別の団体からも自治会・町会があげられており、連携が望まれていることがうかがえる【団体】
- ④ 大田区社会福祉協議会の地域福祉コーディネーターを知っている団体が7割弱となっており、今後、団体との関係をより密にしていくことで、連携できる可能性があることがうかがえる【団体】

地域団体向け調査

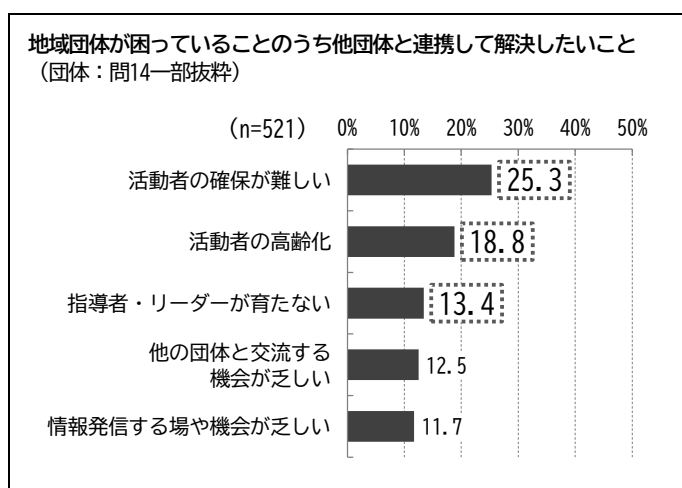
①地域のことを話し合う場への参加意向

地域のことを話し合う場への参加意向について、全体では「参加したい」(65.2%)、「参加できない・したくない」(4.0%)、「わからない」(26.5%)と続く。“参加する可能性がある”（「参加したい」「わからない」）は91.7%となっている。



②地域団体が困っていることのうち他団体と連携して解決したいこと

地域団体が困っていることのうち他団体と連携して解決したいことについて、全体では「活動者の確保が難しい」(25.3%)が最多、「活動者の高齢化」(18.8%)、「指導者・リーダーが育たない」(13.4%)と続く。



③地域の活動を発展させるため、今後連携・協力関係を深めたい団体や機関

活動を発展させるため、今後連携・協力関係を深めたい他団体について、全体では「区役所・地域庁舎・特別出張所」(39.9%)が最多、「社会福祉協議会」(32.5%)、「学校」(28.3%)、「自治会・町会」(27.2%)、「地域包括支援センター」(25.7%)と続く。

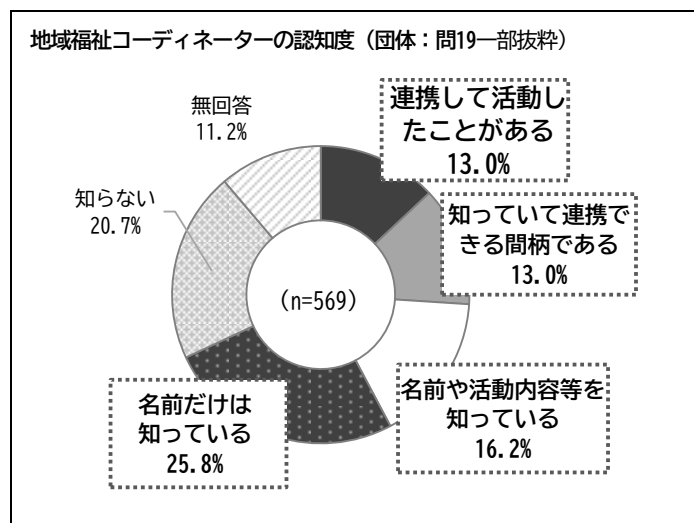
団体種別でみると、どの種別の団体であっても「自治会・町会」が上位にあげられていることがわかる。

地域の活動を発展させるため、今後連携・協力関係を深めたい団体や機関 (団体：問16 一部抜粋)
(団体種別のクロス集計)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位
全体(n=569)	区役所・地域庁舎・特別出張所 39.9%	社会福祉協議会 32.5%	学校 28.3%	自治会・町会 27.2%	地域包括支援センター 25.7%	警察署 17.9%
自治会・町会(n=177)	区役所・地域庁舎・特別出張所 45.8%	自治会・町会 30.5%	学校 30.5%	警察署 30.5%	消防署 29.4%	地域包括支援センター 26.0%
民生委員 児童委員協議会 (n=62)	地域包括支援センター 48.4%	社会福祉協議会 43.5%	自治会・町会 38.7%	学校 38.7%	区役所・地域庁舎・特別出張所 37.1%	保育園・児童館 29.0%
ボランティア団体(n=128)	社会福祉協議会 41.3%	区役所・地域庁舎・特別出張所 34.7%	学校 26.0%	地域包括支援センター 22.7%	保育園・児童館 20.0%	自治会・町会 19.3%
社会福祉法人(n=21)	社会福祉協議会 33.3%	民生委員児童委員 29.2%	区役所・地域庁舎・特別出張所／自治会・町会／ ボランティア・NPO団体／民間企業			25.0%
区民活動団体(n=114)	区役所・地域庁舎・特別出張所 39.5%	社会福祉協議会 31.6%	自治会・町会 27.2%	学校 25.4%	地域包括支援センター 21.9%	民間企業 18.4%
民間企業(n=14)	区役所・地域庁舎・特別出張所 57.1%	社会福祉協議会 35.7%	学校 35.7%	自治会・町会 28.6%	商店街 28.6%	地域包括支援センター 他3団体 21.4%

④地域福祉コーディネーターの認知度

大田区社会福祉協議会の地域福祉コーディネーターの認知度について、全体では“知っている”(「連携して活動したことがある」「知っていて連携できる間柄である」「名前や活動内容等を知っている」「名前だけは知っている」の合計)が68.0%、「知らない」が20.7%となっている。



7 ICTの活用状況と情報取得について

該当調査：【区民】【団体】

- ① 区民が困りごとを解決するための行政情報の希望入手方法はホームページと区報が多く、若年層はSNS、後期高齢者は直接問合せも多いため、対象のニーズに応じた発信方法が求められる【区民】
- ② 普段利用しているSNSを年齢別にみると、65歳以上でもLINEの割合は高く、区からの情報発信について、SNSが今後有効な手段になる可能性がうかがえる【区民】
- ③ 団体は行政に対して、活動の充実に向けて必要な情報提供を求めており、区の窓口や掲示板、社会福祉協議会を通じてといった入手方法を希望する団体がいる一方で、区のホームページやSNSでの入手方法を希望する団体も認められる【団体】

区民向け調査

① 悩みや不安・困りごとを解決するために希望する行政情報の入手方法

悩みや不安・困りごとを解決するために希望する行政情報の入手方法について、全体では「大田区公式ホームページ」(43.7%)が最多、「区報」(39.3%)と続く。年代別では、「18～39歳」は「大田区公式SNS(LINEやTwitter等)」(40.4%)、「75歳以上」は「電話・訪問等で区役所や地域庁舎、特別出張所に直接問合せ」と「自治会・町会の回覧板などで」(38.8%、26.3%)が全体と比べて多い。

悩みや不安・困りごとを解決するために希望する行政情報の入手方法（区民：問21一部抜粋）
（年代別のクロス集計）

	大田区公式ホームページ	区報	大田区公式SNS (LINEやTwitter等)	電話・訪問等で 区役所や地域庁舎、特別出張所に直接問合せ	区の掲示板などで	自治会・町会の回覧板などで	
全体(n=1192)	43.7	39.3	23.3	22.8	15.1	12.1	
年代別	18～39歳(n=240)	49.6	27.1	40.4	15.8	12.1	4.2
	40～64歳(n=536)	55.2	35.1	27.1	18.8	12.9	9.1
	65～74歳(n=186)	30.6	55.9	8.1	30.1	21.5	19.4
	75歳以上(n=160)	11.3	52.5	2.5	38.8	20.0	26.3

② 普段利用しているSNS

普段利用しているSNSについて、区民全体では「LINE」(75.3%)が最多、「Instagram」(29.1%)、「Twitter」(25.8%)と続く。特に若年層は、SNSを利用している傾向が高い。また、年代別では、「65～74歳」と「75歳以上」の「LINE」の利用率が54.3%、31.3%となっており、65歳以上の区民へのSNSの普及も進んでいる。

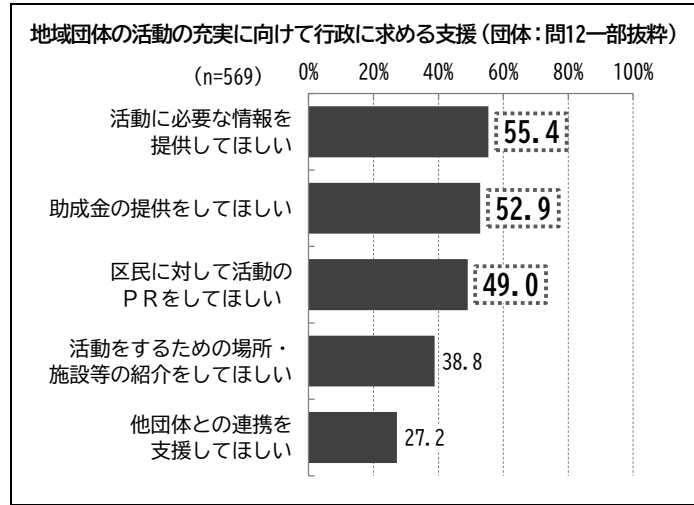
ふだん利用しているSNS（区民：問9一部抜粋）
（年代別のクロス集計）

	LINE (ライン)	Instagram (インスタグラム)	Twitter (ツイッター)	Facebook (フェイスブック)	TikTok (ティックトック)	
全体(n=1192)	75.3	29.1	25.8	16.9	4.7	
年代別	18～39歳(n=240)	93.8	62.9	57.9	19.2	10.8
	40～64歳(n=536)	87.7	30.6	26.7	23.7	4.3
	65～74歳(n=186)	54.3	5.4	3.8	8.1	2.2
	75歳以上(n=160)	31.3	1.3	1.3	1.9	0.0

地域団体向け調査

③地域団体の活動に必要な支援と情報の希望入手方法

地域団体の活動の充実に向けて行政に求める支援について、全体では「活動に必要な情報を提供してほしい」(55.4%)が最多、「助成金の提供をしてほしい」(52.9%)、「区民に対して活動のPRをしてほしい」(49.0%)と続く。



地域団体の活動に必要な情報の希望入手方法について、全体では「区役所の窓口や区の掲示板」(34.1%)が最多、「社会福祉協議会を通じて」(33.9%)、「区のホームページ」(30.6%)、「区報」(30.2%)と続く。

団体種別では、“区民活動団体”と“民間企業”は「区のホームページ」と「区のSNS」が全体と比べて多く、団体によってはICTを活用した情報入手方法を求めていることがうかがえる。

地域団体の活動に必要な情報の希望入手方法 (団体：問11一部抜粋)
(団体種別のクロス集計)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位
全体(n=569)	区役所の窓口や区の掲示板 34.1%	社会福祉協議会を通じて 33.9%	区のホームページ 30.6%	区報 30.2%	福祉サービス事業所や職員を通じて 20.7%	区のSNS 15.3%
自治会・町会(n=177)	区役所の窓口や区の掲示板 42.4%	区報 28.8%	区のホームページ 23.7%	社会福祉協議会を通じて 22.0%	福祉サービス事業所や職員を通じて 19.8%	民生委員児童委員を通じて 17.5%
民生委員児童委員協議会(n=62)	社会福祉協議会を通じて 53.2%	福祉サービス事業所や職員を通じて 43.5%	区役所の窓口や区の掲示板 32.3%	民生委員児童委員を通じて 29.0%	区のホームページ/区報 27.4%	
ボランティア団体(n=128)	社会福祉協議会を通じて 46.0%	区報 33.3%	区のホームページ 28.7%	区役所の窓口や区の掲示板 26.0%	福祉サービス事業所や職員を通じて 18.0%	区のSNS 12.7%
社会福祉法人(n=21)	社会福祉協議会を通じて 37.5%	区のホームページ 33.3%	区報 25.0%	区役所の窓口や区の掲示板/ 区のSNS 20.8%	他の団体を通じて 12.5%	
区民活動団体(n=114)	区のホームページ 44.7%	区役所の窓口や区の掲示板 35.1%	区報 32.5%	社会福祉協議会を通じて/ 区のSNS 27.2%		他の団体を通じて 18.4%
民間企業(n=14)	区のホームページ 64.3%	社会福祉協議会を通じて/ 区のSNS 35.7%		区役所の窓口や区の掲示板 28.6%	区報/福祉サービス事業所や職員を通じて/ 他の団体を通じて 14.3%	

8 区民における将来の生活に対する備えについて

該当調査：【区民】

- ① 成年後見制度の内容を知っている人は約4割にとどまり、知らない人の方が6割弱と多くなっている。成年後見制度の内容はテレビやラジオ、新聞を通じて知っている人が多く、区役所や地域包括支援センターなどで知った方は、1割にも満たない。【区民】
- ② 成年後見制度の利用意向は年代が高齢になるにつれて低くなっており、若い世代の方のほうが制度の利用意向があることがうかがえる。【区民】
- ③ 成年後見制度が利用しやすくなるために必要な取り組みとして、知る機会の充実、簡便な利用手続き、身近な相談窓口の設置が求められている。区等が制度の理解啓発について効果的に広報活動することや、相談窓口等の周知を行うなどで、区民の認知度が高められるものと考えられる。【区民】
- ④ 安心して暮らすために心配なことは、家族のこと、収入のこと、各種費用の他に、金銭管理や財産管理、相続や遺言、不動産の管理などがあげられる。【区民】

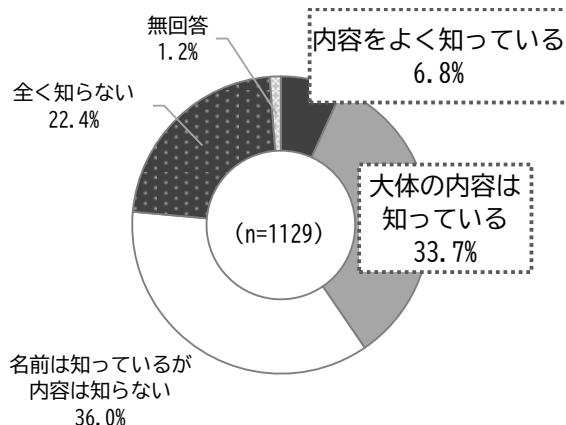
区民向け調査

①成年後見制度の認知度と知った方法

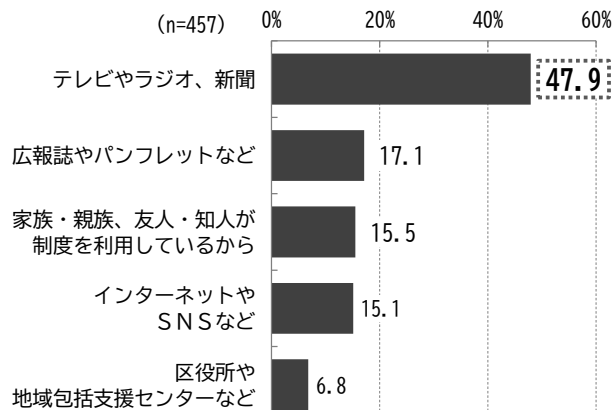
成年後見制度の認知度について、全体では“内容を知っている”（「内容をよく知っている」「大体的内容は知っている」の合計）が40.5%、“内容を知らない”（「名前は知っているが内容は知らない」「全く知らない」の合計）が58.4%となっており、内容を知らない人の方が多い。

成年後見制度を知っている人のうち、知った方法について、全体では「テレビやラジオ、新聞」(47.9%)が最多、「広報誌やパンフレットなど」(17.1%)、「家族・親族、友人・知人が制度を利用しているから」(15.5%)、「インターネットやSNSなど」(15.1%)と続く。「区役所や地域包括支援センター」は6.8%となっている。

成年後見制度の認知度（区民：問31）

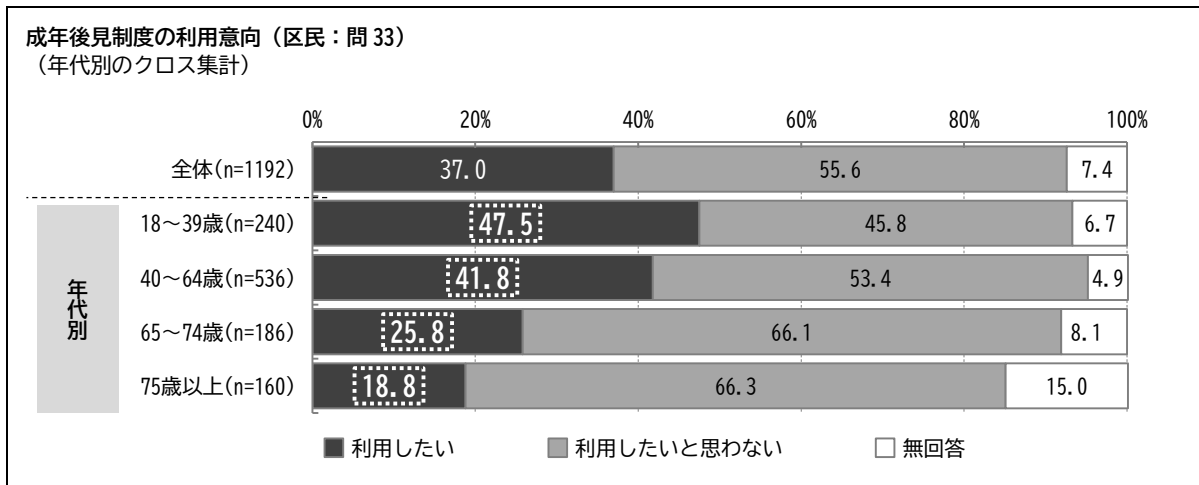


成年後見制度を知った方法（区民：問32一部抜粋）



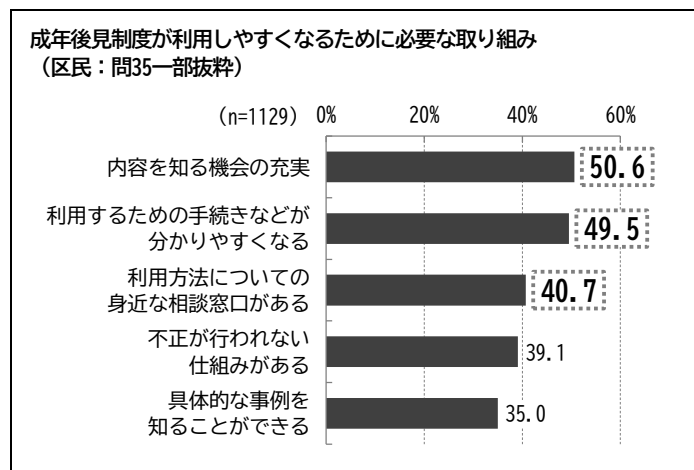
②成年後見制度の利用意向

成年後見制度の利用意向について、全体では「利用したい」が37.0%、「利用したいと思わない」が55.6%となっている。年代別で「利用したい」に着目すると、年代が高齢になるにつれて「利用したい」の割合が低くなっていることがわかる。



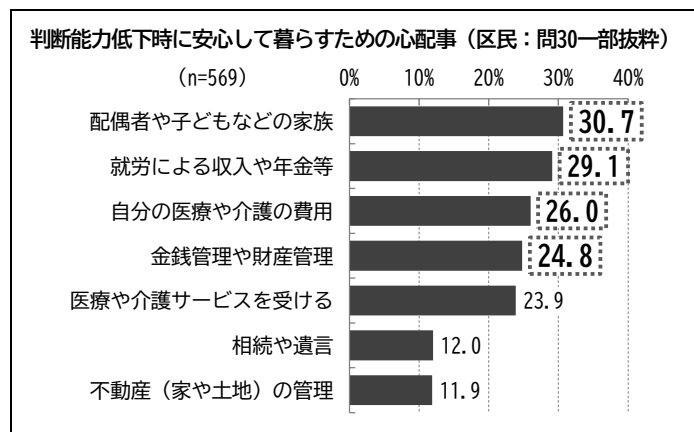
③成年後見制度が利用しやすくなるために必要な取り組み

成年後見制度が利用しやすくなるために必要な取り組みについて、全体では「内容を知る機会の充実」(50.6%)が最多、「利用するための手続きなどが分かりやすくなる」(49.5%)、「利用方法についての身近な相談窓口がある」(40.7%)と続く。



④判断能力低下時に安心して暮らすための心配事

判断能力低下時に安心して暮らすための心配事について、「配偶者や子どもなど家族のこと」(30.7%)が最多、「収入のこと(就労による収入や年金等)」(29.1%)、「自分の医療や介護の費用のこと」(26.0%)、「金銭管理や財産管理のこと」(24.8%)と続く。



9 大田区の地域福祉施策について

該当調査：【区民】【団体】

- ① 区民全体からは、世代による切れ目のない支援体制の充実が求められている
若年層からは人々の多様性に応じた環境づくりや、多様性を認め合う意識の醸成が求められている一方で、75歳以上の区民からは人と人との交流や社会参加への支援、支え合いの意識の醸成が求められており、他の世代と比べて後期高齢者は他者とのつながりや社会との接点を望んでいることがうかがえる【区民】
- ② 地域団体からは、区民における地域への参加支援の充実と地域内での人の交流や支え合いの意識の醸成が求められている【団体】

区民向け調査

①区民が考える今後福祉分野について区が特に力を入れて取り組むべきこと

区民が回答した今後福祉分野について区が特に力を入れて取り組むべきことについて、全体では「どの世代にも応じた支援体制の充実」(50.9%)が最多、「区民が地域に関わるきっかけづくりの充実」(28.9%)、「ユニバーサルデザインやバリアフリーの視点を踏まえた環境づくり」と「福祉の専門的な人材の育成」(各27.1%)と続く。年代別では、“18～39歳”は特に「ユニバーサルデザインやバリアフリーの視点を踏まえた環境づくり」と「世代や文化、個人の価値観等の多様性を認め合う意識の醸成」(36.3%、24.6%)が全体と比べて5ポイント以上多い。“75歳以上”は「地域で活動する人と人の交流の促進」と「区民や団体が地域で新たに福祉活動を始めるための支援」、「地域住民同士で支えあう(助け合う)意識の醸成」(26.3%、23.8%、26.3%)が全体と比べて5ポイント以上多い。

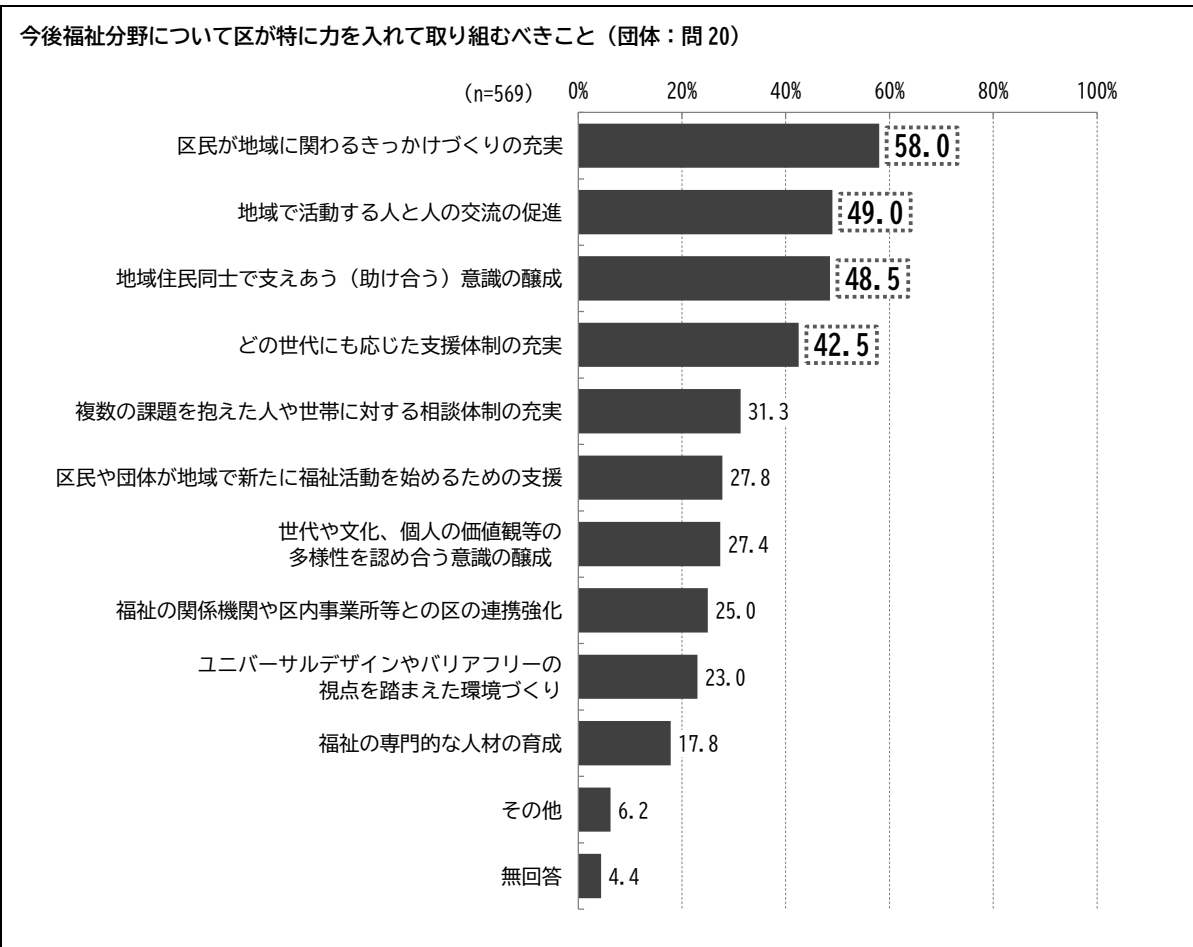
今後福祉分野について区が特に力を入れて取り組むべきこと（区民：問37）
（年代別のクロス集計）

	どの世代にも応じた支援体制の充実	区民が地域に関わるきっかけづくりの充実	福祉の専門的な人材の育成	ユニバーサルデザインやバリアフリーの視点を踏まえた環境づくり	複数の課題を抱えた人や世帯に対する相談体制の充実	福祉の関係機関や区内事業所等との区の連携強化	地域で活動する人と人の交流の促進	世代や文化、個人の価値観等の多様性を認め合う意識の醸成	地域住民同士で支えあう(助け合う)意識の醸成	区民や団体が地域で新たに福祉活動を始めるための支援
全体(n=1192)	50.9	28.9	27.3	27.1	25.1	21.7	18.8	18.2	16.8	15.2
年代別	18～39歳(n=240)	56.7	19.2	25.0	36.3	22.5	17.5	24.6	10.8	9.6
	40～64歳(n=536)	49.8	29.5	26.3	28.5	25.7	23.9	17.4	15.5	13.2
	65～74歳(n=186)	50.5	38.2	31.7	19.4	27.4	20.4	18.3	15.1	20.4
	75歳以上(n=160)	46.3	30.6	28.7	17.5	24.4	15.6	26.3	12.5	26.3

地域団体向け調査

②地域団体が考える今後福祉分野について区が特に力を入れて取り組むべきこと

地域団体が回答した今後福祉分野について区が特に力を入れて取り組むべきことについて、全体では「区民が地域に関わるきっかけづくりの充実」(58.0%)が最多、「地域で活動する人と人の交流の促進」(49.0%)、「地域住民同士で支えあう(助け合う)意識の醸成」(48.5%)、「どの世代にも応じた支援体制の充実」(42.5%)と続く。



第3章 アンケート調査の集計結果

1 区民を対象とした調査の集計結果

1 子どもやその保護者について

問1 あなたの性別を教えてください。

n=1,129

番号	選択肢	回答数(人)	割合(%)
1	男性	481	42.6
2	女性	633	56.1
3	わからない、または答えたくない	5	0.4
	無回答	10	0.9

問2 あなたの年齢を教えてください。

n=1,129

番号	選択肢	回答数(人)	割合(%)
1	18～19歳	12	1.1
2	20～24歳	38	3.4
3	25～29歳	49	4.3
4	30～34歳	61	5.4
5	35～39歳	80	7.1
6	40～44歳	102	9.0
7	45～49歳	115	10.2
8	50～54歳	130	11.5
9	55～59歳	110	9.7
10	60～64歳	79	7.0
11	65～69歳	75	6.6
12	70～74歳	111	9.8
13	75歳以上	160	14.2
	無回答	7	0.6

問3 現在、あなたはどなたと同居しているか教えてください。(複数選択可)

n=1,129

番号	選択肢	回答数(人)	割合(%)
1	ひとり暮らし	202	17.9
2	父親	95	8.4
3	母親	140	12.4
4	配偶者(夫・妻・内縁関係の方も)	692	61.3
5	子ども(未婚)	403	35.7
6	子ども(既婚)	56	5.0
7	兄弟姉妹	74	6.6
8	孫	18	1.6
9	祖父・祖母	9	0.8
10	その他の親戚	17	1.5
11	その他	11	1.0
	無回答	5	0.4

問4 現在、あなたがお住まいの地区を教えてください。

n=1,129

番号	選択肢	回答数 (人)	割合 (%)
1	大森東	28	2.5
2	大森南	19	1.7
3	大森中	17	1.5
4	大森西	41	3.6
5	大森北	39	3.5
6	大森本町	15	1.3
7	平和島	2	0.2
8	昭和島	0	0.0
9	山王	37	3.3
10	平和の森ふるさとの浜辺公園	0	0.0
11	東馬込	10	0.9
12	南馬込	37	3.3
13	中馬込	14	1.2
14	中央	39	3.5
15	西馬込	11	1.0
16	北馬込	11	1.0
17	池上	50	4.4
18	京浜島	0	0.0
19	東海	0	0.0
20	城南島	0	0.0
21	東嶺町	7	0.6
22	西嶺町	4	0.4
23	北嶺町	15	1.3
24	田園調布南	5	0.4
25	田園調布本町	12	1.1
26	田園調布	29	2.6
27	雪谷大塚町	3	0.3
28	鷓の木	21	1.9
29	千鳥	15	1.3
30	南久が原	13	1.2
31	久が原	44	3.9
32	南千束	19	1.7
33	北千束	16	1.4
34	石川町	9	0.8
35	仲池上	14	1.2
36	東雪谷	31	2.7
37	南雪谷	26	2.3
38	上池台	35	3.1
39	東糀谷	19	1.7
40	西糀谷	29	2.6
41	北糀谷	11	1.0
42	羽田旭町	0	0.0
43	羽田	17	1.5
44	本羽田	20	1.8
45	羽田空港	0	0.0
46	萩中	17	1.5
47	東六郷	18	1.6

n=1,129

番号	選択肢	回答数 (人)	割合 (%)
48	西六郷	30	2.7
49	南六郷	29	2.6
50	仲六郷	32	2.8
51	下丸子	42	3.7
52	矢口	19	1.7
53	東矢口	19	1.7
54	多摩川	21	1.9
55	東蒲田	10	0.9
56	南蒲田	15	1.3
57	西蒲田	42	3.7
58	蒲田	25	2.2
59	蒲田本町	7	0.6
60	新蒲田	13	1.2
61	令和島	0	0.0
	無回答	6	0.5

問5 あなたの大田区での居住年数を教えてください。

n=1,129

番号	選択肢	回答数 (人)	割合 (%)
1	1年未満	30	2.7
2	1年以上～5年未満	148	13.1
3	5年以上～10年未満	134	11.9
4	10年以上～20年未満	182	16.1
5	20年以上～30年未満	168	14.9
6	30年以上	463	41.0
	無回答	4	0.4

問6 あなたはこれからも大田区に住みたいと思いますか。

n=1,129

番号	選択肢	回答数 (人)	割合 (%)
1	ずっと住み続けたい	505	44.7
2	当分は住み続けたい	425	37.6
3	できれば大田区外へ移りたい	29	2.6
4	大田区外へ移りたい	14	1.2
5	わからない	147	13.0
	無回答	9	0.8

問7 あなたの就労形態を教えてください。

n=1,129

番号	選択肢	回答数 (人)	割合 (%)
1	会社経営・役員	50	4.4
2	正社員・正職員	433	38.4
3	派遣・契約社員	73	6.5
4	パートタイム・アルバイト	128	11.3
5	内職	3	0.3
6	自営業（農業・漁業を含む）	71	6.3
7	家族従業員（家業の手伝い）	7	0.6
8	家事専業	93	8.2
9	学生	23	2.0
10	その他	8	0.7
11	無職（年金受給等を含む）	234	20.7
	無回答	6	0.5

問8 新型コロナウイルス感染症の感染拡大前よりも、あなたがより一層大切と思うようになったことを教えてください。（複数選択可）

n=1,129

番号	選択肢	回答数 (人)	割合 (%)
1	家族の大切さ	662	58.6
2	友人・知人の大切さ	391	34.6
3	近所づきあいの大切さ	180	15.9
4	直接会って話すことの大切さ	417	36.9
5	健康な心身の大切さ	800	70.9
6	身近な医療機関を持つことの大切さ	446	39.5
7	一日一日の大切さ	320	28.3
8	安定した仕事を持つことの大切さ	354	31.4
9	貯蓄の大切さ	386	34.2
10	趣味を持つことの大切さ	316	28.0
11	その他	16	1.4
12	特になし	45	4.0
	無回答	4	0.4

問9 あなたがふだん利用している SNS があれば教えてください。（複数選択可）

n=1,129

番号	選択肢	回答数 (人)	割合 (%)
1	LINE（ライン）	850	75.3
2	Twitter（ツイッター）	291	25.8
3	Instagram（インスタグラム）	328	29.1
4	Facebook（フェイスブック）	191	16.9
5	TikTok（ティックトック）	53	4.7
6	その他	16	1.4
7	利用していない	221	19.6
	無回答	22	1.9

問 10 ふだん、あなたはどのくらい家族（同居を含む）・親族や知人・友人・職場の同僚等と話をしていますか（LINEやメール、電話等を含む）。

n=1,129

番号	選択肢	回答数（人）	割合（％）
1	ほぼ毎日	894	79.2
2	週4～5日くらい	83	7.4
3	週2～3日くらい	45	4.0
4	週1日くらい	48	4.3
5	ほとんど話をしない	49	4.3
	無回答	10	0.9

問 11 問 10 で回答した頻度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大前と比べ、どのように変化しましたか。

n=1,129

番号	選択肢	回答数（人）	割合（％）
1	以前よりも増えた	104	9.2
2	以前と変わらない	784	69.4
3	以前よりも減った	199	17.6
4	わからない	33	2.9
	無回答	9	0.8

問 12 あなたが自宅以外で居心地のよい場所を教えてください。（複数選択可）

n=1,129

番号	選択肢	回答数（人）	割合（％）
1	職場・学校	239	21.2
2	友人・知人の家	170	15.1
3	趣味や余暇活動の場	439	38.9
4	地域活動・ボランティア活動の場	30	2.7
5	公共施設（図書館、公園等）	195	17.3
6	インターネット空間	143	12.7
7	利用している福祉施設（デイサービス、障がい者施設等）	23	2.0
8	その他	83	7.4
9	居心地のよい場所はない	197	17.4
	無回答	26	2.3

問 13 あなたはふだん、どの程度、社会からの孤立を感じることもあるか教えてください。

n=1,129

番号	選択肢	回答数（人）	割合（％）
1	全く感じない	283	25.1
2	あまり感じない	432	38.3
3	どちらともいえない	116	10.3
4	たまに感じる	242	21.4
5	常に感じる	46	4.1
	無回答	10	0.9

問 14 現在の暮らしにおいて、近所づきあいの程度を教えてください。

n=1,129

番号	選択肢	回答数 (人)	割合 (%)
1	家を行き来するなど親しいつきあいがある	87	7.7
2	立ち話をする程度	283	25.1
3	あいさつをする程度	529	46.9
4	近所づきあいはほとんどない	213	18.9
	無回答	17	1.5

問 15 今後、あなたはどのような近所づきあいをしたいですか。

n=1,129

番号	選択肢	回答数 (人)	割合 (%)
1	家を行き来するなど親しいつきあいがある	111	9.8
2	立ち話をする程度	442	39.1
3	あいさつをする程度	410	36.3
4	特につきあいをしたいと思わない	146	12.9
	無回答	20	1.8

問 16 あなたが現在参加している、または過去に参加したことがある地域活動やボランティア活動があれば教えてください。(複数選択可)

n=1,129

番号	選択肢	回答数 (人)	割合 (%)
1	自治会・町会での活動	243	21.5
2	お祭りなどの活動	191	16.9
3	まちの美化活動・リサイクル回収	85	7.5
4	防犯・防災・交通安全活動	92	8.1
5	子ども会やPTAの活動	255	22.6
6	高齢者に関わる活動	65	5.8
7	障がい者に関わる活動	47	4.2
8	子どもや子育て世代に関わる活動	66	5.8
9	外国人に関わる活動	24	2.1
10	文化・スポーツ振興に関わる活動	74	6.6
11	フードドライブ(未利用食品の寄付)の活動	24	2.1
12	災害ボランティアの活動	30	2.7
13	その他	17	1.5
14	特に参加していない(参加したことはない)	556	49.2
	無回答	11	1.0

問 17 問 16 の選択肢のうち、あなたが参加してみたい地域活動やボランティア活動があれば、最も参加してみたいものを1つ教えてください。

n=1,129

番号	選択肢	回答数 (人)	割合 (%)
1	自治会・町会での活動	21	1.9
2	お祭りなどの活動	92	8.1
3	まちの美化活動・リサイクル回収	42	3.7
4	防犯・防災・交通安全活動	32	2.8
5	子ども会やPTAの活動	17	1.5
6	高齢者に関わる活動	50	4.4
7	障がい者に関わる活動	17	1.5
8	子どもや子育て世代に関わる活動	106	9.4
9	外国人に関わる活動	89	7.9
10	文化・スポーツ振興に関わる活動	127	11.2
11	フードドライブ(未利用食品の寄付)の活動	74	6.6
12	災害ボランティアの活動	35	3.1
13	その他	12	1.1
14	特に参加してみたいものはない	136	12.0
	無回答	279	24.7

問 18 あなたはどのような特徴があれば、地域活動やボランティア活動に参加したいと思いますか。(複数選択可)

n=1,129

番号	選択肢	回答数 (人)	割合 (%)
1	単発・短時間で参加できるもの	544	48.2
2	インセンティブ(ポイントや報酬等)がもらえる	194	17.2
3	自分のビジネススキルが活かせるもの	184	16.3
4	家族や友人・知人等と一緒に参加できるもの	229	20.3
5	自宅で活動できるもの	193	17.1
6	一人でも参加できるもの	322	28.5
7	自宅の近くで参加できるもの	413	36.6
8	その他	18	1.6
9	特徴に関係なく参加したい	20	1.8
10	どのような特徴があっても参加したいと思わない	182	16.1
	無回答	21	1.9

問 19 あなたはどのようなきっかけがあれば地域活動やボランティア活動に参加したいと思いますか。(複数選択可)

n=1,129

番号	選択肢	回答数(人)	割合(%)
1	家族や友人などの身近な人に誘われたら	396	35.1
2	職場から活動への勧めがあれば	91	8.1
3	自分の家族(配偶者や子ども等)と一緒に参加するなら	212	18.8
4	活動している団体(自治会・町会含む)から直接誘われたら	107	9.5
5	活動に参加できるとわかる情報が得られれば	271	24.0
6	1回だけでも参加が可能な機会や場が身近にあれば	440	39.0
7	その他	34	3.0
8	わからない	237	21.0
	無回答	29	2.6

問 20 現在、あなたは日常生活を送る上で悩みや不安、困りごとを感じることがありますか。あれば教えてください。(複数選択可)

n=1,129

番号	選択肢	回答数(人)	割合(%)
1	自分の健康や病気、介護のこと	512	45.3
2	家族の健康や病気、介護のこと	455	40.3
3	家族・友人との人間関係	92	8.1
4	近所づきあい	34	3.0
5	社会とのつながりや居場所について	66	5.8
6	収入・家計のこと	395	35.0
7	仕事のこと	232	20.5
8	子ども・子育てのこと	173	15.3
9	災害に関すること	229	20.3
10	その他	23	2.0
11	特にない	217	19.2
	無回答	4	0.4

問 21 悩みや不安、困りごとを解決するための行政情報やお知らせを入手するために、あなたが希望する媒体・手段を教えてください。(複数選択可)

n=1,129

番号	選択肢	回答数 (人)	割合 (%)
1	電話・訪問等で区役所や地域庁舎、特別出張所に直接問合せ	257	22.8
2	区報	444	39.3
3	区の掲示板などで	170	15.1
4	自治会・町会の回覧板などで	137	12.1
5	大田区公式ホームページ	493	43.7
6	大田区公式 SNS (LINE や Twitter 等)	263	23.3
7	その他	22	1.9
8	特にない	168	14.9
9	行政情報やお知らせを入手する必要がない	22	1.9
	無回答	13	1.2

問 22 あなたは悩みや不安、困りごとを相談したいとき、誰に (どこに) 相談しますか。(複数選択可)

n=1,129

番号	選択肢	回答数 (人)	割合 (%)
1	家族や親類	890	78.8
2	友人・知人	624	55.3
3	近隣住民	37	3.3
4	インターネット上の仲間	43	3.8
5	自治会・町会	8	0.7
6	民生委員児童委員	7	0.6
7	ボランティア団体・活動団体	4	0.4
8	主治医、看護師などの医療関係者	166	14.7
9	区役所・地域庁舎・特別出張所	103	9.1
10	区の専門機関 (地域包括支援センター、障がい者総合サポートセンター、子ども家庭支援センター、キッズな、JOBOTA、SAPOTA、フラットおおた等)	69	6.1
11	その他	30	2.7
12	誰に相談したらいいかわからない	66	5.8
	無回答	13	1.2

問 23 あなたが、ふだんの生活で悩みや不安、困りごとを感じたときに、どのような対応や工夫があれば相談しやすくなると思いますか。(複数選択可)

n=1,129

番号	選択肢	回答数(人)	割合(%)
1	自宅の近くに相談先がある	365	32.3
2	自宅に相談員が来てくれる	69	6.1
3	電話やオンラインのビデオ通話で相談できる	209	18.5
4	メールやSNS、チャットにより相談できる	384	34.0
5	休日や夜間など、相談できる日時を増やしてくれる	267	23.6
6	ひとつの窓口で様々な相談ができる	384	34.0
7	相談時に子どもや高齢者等の見守りをしてくれる	65	5.8
8	その他	12	1.1
9	特にない	218	19.3
	無回答	27	2.4

問 24 あなたはふだんの生活で、近隣の住民同士が自主的に支えあったり、助けあったりするのために、何ができますか。(複数選択可)

n=1,129

番号	選択肢	回答数(人)	割合(%)
1	近隣の方に積極的に挨拶をする	693	61.4
2	近隣の方に日頃から積極的に声をかける	194	17.2
3	自治会・町会へ加入する	112	9.9
4	地域活動やボランティア活動へ参加する	147	13.0
5	その他	8	0.7
6	何もする気はない	204	18.1
	無回答	21	1.9

問 25 あなたはふだんの生活で、サポートしてもらいたいときはありますか。もしあれば、どのようなときか教えてください。(複数選択可)

n=1,129

番号	選択肢	回答数(人)	割合(%)
1	生活上の悩み等、自分の話を聞いてほしいとき	137	12.1
2	掃除や買い物等の日常の生活の支援をしてほしいとき	85	7.5
3	子どもの世話や見守りが必要なとき	116	10.3
4	家族の介護や見守りが必要なとき	174	15.4
5	自分が病気やけがで看護や人手が必要なとき	324	28.7
6	その他	27	2.4
7	サポートしてもらいたいときはない	470	41.6
	無回答	37	3.3

問 26 災害時等の有事の際において誰かの助けが必要なときに、あなたは誰かを頼ったり、助けを求めることができますか。

n=1,129

番号	選択肢	回答数 (人)	割合 (%)
1	求めることができる	366	32.4
2	どちらかといえば求めることができる	409	36.2
3	求めないで自分で何とかする	235	20.8
4	求めることはできない	109	9.7
	無回答	10	0.9

問 27 あなたは、災害（台風の被害等含む）が起きた際に、どのような備えが必要か、また自らがどのように動けばいいか（避難するべきか、自宅で待機すべきか）理解していますか。

n=1,129

番号	選択肢	回答数 (人)	割合 (%)
1	理解している	188	16.7
2	だいたい理解している	792	70.2
3	知らない・わからない	134	11.9
	無回答	15	1.3

問 28 もしもあなたが大規模災害に遭ったとき、お住まいの地域でどのような活動ができると思いますか。（複数選択可）

n=1,129

番号	選択肢	回答数 (人)	割合 (%)
1	身近な人への声かけ・安否確認（連絡代行含む）	614	54.4
2	地域の人たちと災害状況を共有すること	566	50.1
3	水や食料の提供・炊き出し等の協力	443	39.2
4	避難所や安全な場所への誘導・移動支援	278	24.6
5	応急処置・けが人の救助	134	11.9
6	介助・介護が必要な人への支援等	176	15.6
7	災害ごみの搬出	143	12.7
8	発災後の生活復旧へのボランティア支援	167	14.8
9	その他	16	1.4
10	何もできない	168	14.9
	無回答	13	1.2

問 29 あなたは、性別や年齢、障害、異なる国籍など、様々な特徴や個性を持つ人たちに対して思いやりや優しさを持って接することについて、どのようにお考えですか。

n=1,129

番号	選択肢	回答数 (人)	割合 (%)
1	ためらいがなく、自然に接することができる	553	49.0
2	どちらともいえない	452	40.0
3	自然に接することについて、ややためらいがある	114	10.1
	無回答	10	0.9

問 30 もしもあなたが、病気や加齢により判断能力が低下した時に、安心して暮らすために心配なことについて、以下の中から3つまで教えてください。(3つまで選択可)

n=1,129

番号	選択肢	回答数 (人)	割合 (%)
1	相続や遺言のこと	136	12.0
2	金銭管理や財産管理のこと	280	24.8
3	不動産(家や土地)の管理のこと	134	11.9
4	住まいに係る費用や賃貸住宅の更新など	120	10.6
5	税金に関すること	69	6.1
6	収入のこと(就労による収入や年金等)	328	29.1
7	自分が希望する年齢まで働くこと	72	6.4
8	自身が医療や介護サービスを受けること	270	23.9
9	自分の医療や介護の費用のこと	293	26.0
10	身元保証(病院の入院や施設入所手続き)	55	4.9
11	官公庁への手続き	41	3.6
12	葬儀やお墓の維持・管理のこと	70	6.2
13	配偶者や子どもなど家族のこと	347	30.7
14	世話をしているペットのこと	43	3.8
15	頼れる人がいないこと	47	4.2
16	地域で親しい付き合いをしている人がいないこと	31	2.7
17	どこに相談したらいいかわからない	58	5.1
18	考えたことがない	88	7.8
19	まだ、考えたくない	51	4.5
20	その他	8	0.7
21	特になし	44	3.9
	無回答	63	5.6

問 31 あなたは「成年後見制度」の内容を知っていますか。

n=1,129

番号	選択肢	回答数 (人)	割合 (%)
1	内容をよく知っている	77	6.8
2	大体の内容は知っている	380	33.7
3	名前は知っているが内容は知らない	406	36.0
4	全く知らない	253	22.4
	無回答	13	1.2

問 32 「成年後見制度」をどのように知りましたか。(複数選択可)

※問 31 で「内容をよく知っている」「大体的内容は知っている」のいずれかを選択した人が回答

n=457

番号	選択肢	回答数 (人)	割合 (%)
1	テレビやラジオ、新聞などで知った	219	47.9
2	広報誌やパンフレットなどで知った	78	17.1
3	インターネットや SNS などで知った	69	15.1
4	家族・親族、友人・知人が制度を利用しているので知った	71	15.5
5	区役所や地域包括支援センターなどで知った	31	6.8
6	ケアマネジャーや介護職員、障がい者の支援員等から聞いた	30	6.6
7	講演会や相談会で知った	9	2.0
8	その他	85	18.6
	無回答	1	0.2

問 33 あなたは「成年後見制度」を利用したいと思いますか。

n=1,129

番号	選択肢	回答数 (人)	割合 (%)
1	利用したい	418	37.0
2	利用したいと思わない	628	55.6
	無回答	83	7.4

問 34 あなたが、成年後見制度を利用する場合は、誰に成年後見人として、財産管理や身上保護などを支援してほしいですか。(複数選択可)

※問 33 で「利用したい」を選択した人が回答

n=418

番号	選択肢	回答数 (人)	割合 (%)
1	家族や親族	334	79.9
2	近隣の住民	2	0.5
3	友人・知人	44	10.5
4	社会福祉協議会 (成年後見センター)	58	13.9
5	弁護士や司法書士、社会福祉士などの専門職	120	28.7
6	市民後見人※	19	4.5
7	誰でもかまわない	2	0.5
8	その他	2	0.5
9	わからない	24	5.7
	無回答	2	0.5

問 35 あなたは、成年後見制度が利用しやすいものとなるためには、どのようなことが必要であると思いますか。(複数選択可)

n=1,129

番号	選択肢	回答数(人)	割合(%)
1	成年後見制度内容を知る機会が充実すること(パンフレットやホームページ、説明会など)	571	50.6
2	成年後見制度利用の方法などに関して、身近な相談窓口があること	459	40.7
3	成年後見制度を利用するための手続きなどが、分かりやすくなること	559	49.5
4	成年後見人の役割や実際に利用している人の具体的な事例を知ることができること	395	35.0
5	成年後見制度を利用するための費用の不安がないこと	393	34.8
6	財産の横領などの不正が行われないような仕組みがあること	441	39.1
7	その他	16	1.4
8	わからない	125	11.1
	無回答	49	4.3

問 36 大田区社会福祉協議会は、地域の皆さんの地域活動・ボランティア活動をサポートしています。大田区社会福祉協議会が行っている活動で、あなたが知っている活動はありますか。(複数選択可)

n=1,129

番号	選択肢	回答数(人)	割合(%)
1	フードドライブ事業(未利用食品を集めて、必要な方に配布する事業)	203	18.0
2	こども食堂の推進	299	26.5
3	赤い羽根共同募金・歳末たすけあい募金運動	516	45.7
4	車いす無料貸出事業	147	13.0
5	使用済切手/インクカートリッジの回収等	157	13.9
6	災害ボランティア	119	10.5
7	絆サポーター事業	39	3.5
8	子育て世帯向けの食料支援(ほほえみごはん事業)	80	7.1
9	地域福祉コーディネーター	74	6.6
10	その他	5	0.4
11	知らない	430	38.1
	無回答	27	2.4

問 37 あなたは今後、福祉分野について区が特に力を入れて取り組むべきことは次のうちどれだと思いますか。(複数選択可)

n=1,129

番号	選択肢	回答数(人)	割合(%)
1	区民が地域に関わるきっかけづくりの充実	326	28.9
2	地域で活動する人と人の交流の促進	212	18.8
3	区民や団体が地域で新たに福祉活動を進めるための支援	171	15.1
4	ユニバーサルデザインやバリアフリーの視点を踏まえた環境づくり	306	27.1
5	どの世代にも応じた支援体制の充実	575	50.9
6	複数の課題を抱えた人や世帯に対する相談体制の充実	283	25.1
7	地域住民同士で支えあう(助け合う)意識の醸成	192	17.0
8	福祉の専門的な人材の育成	306	27.1
9	福祉の関係機関や区内事業所等との区の連携強化	244	21.6
10	世代や文化、個人の価値観等の多様性を認め合う意識の醸成	205	18.2
11	その他	51	4.5
	無回答	36	3.2

2 地域団体を対象とした調査の集計結果

地域団体区分

n=569

番号	選択肢	回答数 (人)	割合 (%)
1	紙	415	72.9
2	WEB	154	27.1
	無回答	0	0.0

問2 貴団体が地域で活動を行おうと思ったきっかけを教えてください。(複数選択可)

n=569

番号	選択肢	回答数 (人)	割合 (%)
1	友人や知人と何かを始めたくて	79	13.9
2	近所の人と呼びかけあって	61	10.7
3	同じ悩みを抱えた人が集まって	36	6.3
4	趣味のサークルなどが発展して	50	8.8
5	職場の同僚と呼びかけあって	12	2.1
6	区や社会福祉協議会から呼びかけられて	60	10.5
7	会社で地域貢献活動に力を入れるようになったから	47	8.3
8	その他	146	25.7
9	わからない	8	1.4
	無回答	217	38.1

問3 貴団体の主な活動エリアを教えてください。

n=569

番号	選択肢	回答数 (人)	割合 (%)
1	活動エリアを限定していない	126	22.1
2	主な活動エリアがある	223	39.2
	無回答	220	38.7

問4 貴団体は、地域での活動を始めてどのくらいになりますか。通算の年数で教えてください。

n=569

番号	選択肢	回答数 (人)	割合 (%)
1	1年未満	16	2.8
2	1年以上～3年未満	26	4.6
3	3年以上～5年未満	34	6.0
4	5年以上～10年未満	57	10.0
5	10年以上～20年未満	94	16.5
6	20年以上	126	22.1
	無回答	216	38.0

問5 活動者数の項目

n=569

番号	選択肢	回答数 (人)	割合 (%)
1	1～5人	48	8.4
2	6～10人	62	10.9
3	11～20人	85	14.9
4	21～50人	91	16.0
5	51～100人	28	4.9
6	101人以上	29	5.1
	無回答	226	39.7

問6 貴団体が取り組んでいる主な活動を教えてください。(複数選択可)

n=569

番号	選択肢	回答数 (人)	割合 (%)
1	季節行事の運営 (お祭りや伝統行事など)	254	44.6
2	まちの美化活動 (ゴミ出し、リサイクル、放置自転車、花壇の植栽の手入れなど)	220	38.7
3	防犯・防災対策 (巡回パトロール、情報提供、避難訓練など)	252	44.3
4	交通安全対策 (交通安全運動期間中の見守り、交通事故防止啓発活動など)	208	36.6
5	高齢者向けの支援 (見守りや定期訪問、健康づくりなど)	315	55.4
6	障がい者向けの支援 (施設訪問、交流活動など)	143	25.1
7	子どもや子育て世代のための支援 (子育ての悩み相談、育児グループの支援、子どもの居場所の提供など)	203	35.7
8	青少年健全育成のための支援 (不登校、ひきこもり対策など)	106	18.6
9	生活困窮者向けの支援 (就労支援、フードドライブなど)	92	16.2
10	社会教育 (生涯学習、スポーツ、文化活動など)	178	31.3
11	その他	45	7.9
12	検討しているものの、今のところはない	5	0.9
	無回答	1	0.2

問7 問6の選択肢のうち、貴団体が今後取り組んでみたい活動を教えてください。(複数選択可)

n=569

番号	選択肢	回答数(人)	割合(%)
1	季節行事の運営(お祭りや伝統行事など)	73	12.8
2	まちの美化活動(ゴミ出し、リサイクル、放置自転車、花壇の植栽の手入れなど)	51	9.0
3	防犯・防災対策(巡回パトロール、情報提供、避難訓練など)	68	12.0
4	交通安全対策(交通安全運動期間中の見守り、交通事故防止啓発活動など)	41	7.2
5	高齢者向けの支援(見守りや定期訪問、健康づくりなど)	144	25.3
6	障がい者向けの支援(施設訪問、交流活動など)	87	15.3
7	子どもや子育て世代のための支援(子育ての悩み相談、育児グループの支援、子どもの居場所の提供など)	147	25.8
8	青少年健全育成のための支援(不登校、ひきこもり対策など)	94	16.5
9	生活困窮者向けの支援(就労支援、フードドライブなど)	62	10.9
10	社会教育(生涯学習、スポーツ、文化活動など)	132	23.2
11	その他	44	7.7
12	検討しているものの、今のところはない	40	7.0
	無回答	127	22.3

問8 貴団体では、地域の居場所の提供となるような取り組みに興味・関心はありますか。

n=569

番号	選択肢	回答数(人)	割合(%)
1	興味・関心があり、すでに取り組んでいる	191	33.6
2	興味・関心はある	287	50.4
3	特にない	85	14.9
	無回答	6	1.1

問9 貴団体の活動に参加されている区民の方から生活上の困りごとの相談を受けたことがありますか。

n=569

番号	選択肢	回答数(人)	割合(%)
1	受けたことがある	319	56.1
2	受けたことはない	246	43.2
	無回答	4	0.7

問 10 貴団体は、地域での活動に必要な行政情報をどこから入手してますか。(複数選択可)

n=569

番号	選択肢	回答数 (人)	割合 (%)
1	区役所の窓口や区の掲示板	306	53.8
2	区報	322	56.6
3	区のホームページ	217	38.1
4	区のSNS	58	10.2
5	社会福祉協議会を通じて	346	60.8
6	民生委員児童委員を通じて	175	30.8
7	福祉サービス事業所や職員を通じて	189	33.2
8	他の団体を通じて	181	31.8
9	友人・知人などの知り合いを通じて	131	23.0
10	その他	70	12.3
11	特にない	12	2.1
	無回答	5	0.9

問 11 問 10 の選択肢のうち、貴団体が地域での活動に必要な行政情報をどこから入手したいですか。(複数選択可)

n=569

番号	選択肢	回答数 (人)	割合 (%)
1	区役所の窓口や区の掲示板	194	34.1
2	区報	172	30.2
3	区のホームページ	174	30.6
4	区のSNS	87	15.3
5	社会福祉協議会を通じて	193	33.9
6	民生委員児童委員を通じて	82	14.4
7	福祉サービス事業所や職員を通じて	118	20.7
8	他の団体を通じて	76	13.4
9	友人・知人などの知り合いを通じて	47	8.3
10	その他	67	11.8
11	特にない	22	3.9
	無回答	123	21.6

問 12 貴団体の活動を充実させるために、行政に求める支援を教えてください。(複数選択可)

n=569

番号	選択肢	回答数 (人)	割合 (%)
1	活動に必要な情報を提供してほしい	315	55.4
2	活動をするための場所・施設等の紹介をしてほしい	221	38.8
3	団体運営上の助言をしてほしい	117	20.6
4	助成金の提供をしてほしい	301	52.9
5	他団体との連携を支援してほしい(ネットワーク化、交流会の開催など)	155	27.2
6	活動の質を高める研修を開催してほしい	137	24.1
7	区民に対して活動のPRをしてほしい	279	49.0
8	その他	11	1.9
9	特にない	35	6.2
	無回答	7	1.2

問 13 貴団体が困っていることを教えてください。(複数選択可)

n=569

番号	選択肢	回答数 (人)	割合 (%)
1	活動者の確保が難しい	340	59.8
2	指導者・リーダーが育たない	172	30.2
3	活動者の高齢化	342	60.1
4	活動に必要な機材の不足	45	7.9
5	活動資金が足りない	136	23.9
6	活動拠点(場所)の確保が難しい	142	25.0
7	情報発信する場や機会が乏しい	110	19.3
8	情報発信のデジタル化ができない	107	18.8
9	活動支援の情報が得にくい	68	12.0
10	他の団体と交流する機会が乏しい	103	18.1
11	ニーズに合った活動ができていない	59	10.4
12	活動がマンネリ化している	131	23.0
13	活動範囲が広がらない	83	14.6
14	活動の専門知識や技術などの研修機会が少ない	89	15.6
15	事故への責任、保険に不安	90	15.8
16	その他	29	5.1
17	特にない	42	7.4
	無回答	6	1.1

問 14 問 13 で回答した困っていることのうち、貴団体が他の団体や機関と連携して解決した
 いことを教えてください。(複数選択可)

※問 13 で選択肢番号 1～16 を選択した人が回答

n=521

番号	選択肢	回答数 (人)	割合 (%)
1	活動者の確保が難しい	132	25.3
2	指導者・リーダーが育たない	70	13.4
3	活動者の高齢化	98	18.8
4	活動に必要な機材の不足	14	2.7
5	活動資金が足りない	48	9.2
6	活動拠点(場所)の確保が難しい	60	11.5
7	情報発信する場や機会が乏しい	61	11.7
8	情報発信のデジタル化ができない	46	8.8
9	活動支援の情報が得にくい	33	6.3
10	他の団体と交流する機会が乏しい	65	12.5
11	ニーズに合った活動ができていない	19	3.6
12	活動がマンネリ化している	45	8.6
13	活動範囲が広がらない	38	7.3
14	活動の専門知識や技術などの研修機会が少ない	56	10.7
15	事故への責任、保険に不安	29	5.6
16	その他	11	2.1
17	特にない	12	2.3
	無回答	173	33.2

問 15 貴団体は地域での活動を行ううえで、以下のような団体や機関と連携・協力関係がありますか。(複数選択可)

n=569

番号	選択肢	回答数(人)	割合(%)
1	区役所・地域庁舎・特別出張所	417	73.3
2	社会福祉協議会	391	68.7
3	生活再建・就労サポートセンター JOBOTA	50	8.8
4	大田区ひきこもり支援室 SAPOTA	22	3.9
5	地域包括支援センター	311	54.7
6	自治会・町会	320	56.2
7	民生委員児童委員	233	40.9
8	警察署	221	38.8
9	消防署	218	38.3
10	児童相談所	67	11.8
11	保育園・児童館	150	26.4
12	学校	289	50.8
13	P T A (おやじの会等含む)	133	23.4
14	青少年対策地区委員会または青少年委員	202	35.5
15	保護司会	113	19.9
16	障がい者団体など当事者団体	95	16.7
17	民間の社会福祉施設や社会福祉事業者	110	19.3
18	医療機関	61	10.7
19	シニアクラブ	130	22.8
20	ボランティア・NPO団体	111	19.5
21	商店街	133	23.4
22	民間企業	87	15.3
23	その他	21	3.7
24	特にない	18	3.2
	無回答	5	0.9

問 16 問 15 の選択肢のうち、貴団体が地域の活動を発展させるため、今後連携・協力関係を深めたい団体や機関を教えてください。（複数選択可）

n=569

番号	選択肢	回答数（人）	割合（％）
1	区役所・地域庁舎・特別出張所	227	39.9
2	社会福祉協議会	185	32.5
3	生活再建・就労サポートセンター JOBOTA	34	6.0
4	大田区ひきこもり支援室 SAPOTA	48	8.4
5	地域包括支援センター	146	25.7
6	自治会・町会	155	27.2
7	民生委員児童委員	89	15.6
8	警察署	102	17.9
9	消防署	89	15.6
10	児童相談所	52	9.1
11	保育園・児童館	92	16.2
12	学校	161	28.3
13	P T A（おやじの会等含む）	93	16.3
14	青少年対策地区委員会または青少年委員	69	12.1
15	保護司会	37	6.5
16	障がい者団体など当事者団体	60	10.5
17	民間の社会福祉施設や社会福祉事業者	68	12.0
18	医療機関	61	10.7
19	シニアクラブ	75	13.2
20	ボランティア・NPO団体	85	14.9
21	商店街	92	16.2
22	民間企業	82	14.4
23	その他	17	3.0
24	特にない	32	5.6
	無回答	96	16.9

問 17 貴団体の活動に参加する人を増やすためにはどのような工夫をすればよいと思いますか。（複数選択可）

n=569

番号	選択肢	回答数（人）	割合（％）
1	単発・短時間で参加できる機会をつくる	238	41.8
2	参加者の経験が活かせる機会をつくる	204	35.9
3	家族や友人・知人等と一緒に参加できる機会をつくる	194	34.1
4	活動者同士で対面しなくてもよい活動を増やす	39	6.9
5	活動内容の情報をわかりやすく発信する	314	55.2
6	つながりのある団体や機関に所属している人に声をかける	187	32.9
7	地域でのイベント等で協力を呼び掛ける	258	45.3
8	その他	36	6.3
9	わからない	17	3.0
	無回答	35	6.2

問 18 地域のことについて話し合いができるような場があれば、貴団体は、参加したいと思いますか。

n=569

番号	選択肢	回答数 (人)	割合 (%)
1	参加したい	371	65.2
2	参加できない・したくない	23	4.0
3	わからない	151	26.5
	無回答	24	4.2

問 19 大田区で活動している【地域福祉コーディネーター】を知っていますか。

n=569

番号	選択肢	回答数 (人)	割合 (%)
1	連携して活動したことがある	74	13.0
2	知っていて連携できる間柄である	74	13.0
3	名前や活動内容等を知っている	92	16.2
4	名前だけは知っている	147	25.8
5	知らない	118	20.7
	無回答	64	11.2

問 20 今後、区が特に力を入れて取り組むべきことは次のうちどれだと思いますか。(複数選択可)

n=569

番号	選択肢	回答数 (人)	割合 (%)
1	区民が地域に関わるきっかけづくりの充実	330	58.0
2	地域で活動する人と人の交流の促進	279	49.0
3	区民や団体が地域で新たに福祉活動を進めるための支援	158	27.8
4	ユニバーサルデザインやバリアフリーの視点を踏まえた環境づくり	131	23.0
5	どの世代にも応じた支援体制の充実	242	42.5
6	複数の課題を抱えた人や世帯に対する相談体制の充実	178	31.3
7	地域住民同士で支えあう(助け合う)意識の醸成	276	48.5
8	福祉の専門的な人材の育成	101	17.8
9	福祉の関係機関や区内事業所等との区の連携強化	142	25.0
10	世代や文化、個人の価値観等の多様性を認め合う意識の醸成	156	27.4
11	その他	35	6.2
	無回答	25	4.4

第4章 ヒアリング調査

1 目的

子ども・子育て世代、若者、高齢者、生活困窮、障がいを抱える方など、日頃から様々な世代や対象の方の支援に携わっている団体の方々に対し、ヒアリング調査を実施した。

区民アンケート調査に加え、日常生活を送る上で対象の方が抱えている困り事など、より詳しい現状を把握し、次期大田区地域福祉計画に反映することを目的としている。

2 ヒアリングへの協力者

分類	ヒアリングへの協力者
(1) 子ども・子育て世帯	①大田区立西糀谷児童館 館長 ②大田区立教育センター スクールソーシャルワーカー ③一般社団法人ともしびatだんだん 代表理事
(2) 高齢者	④大田区地域包括支援センター新蒲田 センター長 ⑤NPO法人大田区介護支援専門員連絡会 理事
(3) 障害者	⑥大田区立障がい者総合サポートセンター 管理者/相談員 (社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会) ⑦かまた・こうじや生活支援センター 施設長/職員 (社会福祉法人プシケおおた)
(4) 生活困窮者	⑧大田区生活再建・就労サポートセンターJOBOTA 所長 (社会福祉法人やまて福祉会) ⑨日常生活支援居住施 春風寮 所長 (社会福祉法人有隣協会)
(5) 若者・その他	⑩大田区ひきこもり支援室SAPOTA 室長 (社会福祉法人やまて福祉会) ⑪大田区若者サポートセンター フラットおおた センター長 (NPO法人育て上げネット) ⑫東邦大学看護学部の学生

3 方法・期間

- 1 調査方法 対面による聞き取り調査
- 2 調査期間 令和4年12月20日(火)～令和5年2月27日(月)



大田区ひきこもり支援室
SAPOTAでのヒアリング



大田区若者サポートセンター
フラットおおたでのヒアリング

4 主な内容

(1) 子ども・子育て世帯

①大田区立西糀谷児童館 館長

児童館は、主に0歳児から中学生程度までの年代の子ども及び子育て世代が利用している施設で、利用者へ体操や手遊び、季節行事、子育てに関する情報交換や相談などの活動を行っている。

主な ヒアリング 内容	<ul style="list-style-type: none">○コロナ禍では従来からのイベントを中止していたが、他に子育て世帯の居場所が少ないこともあるのか、児童館への訪問者数はほぼ変わらなかった。○最近の傾向として、父親の利用頻度がとても高い。はじめは敷居が高く感じるようだが、一度訪れると安心され、継続的な利用につながっている。○子育て相談では、日々の子育ての小さな悩みを解決していく事が、しいては虐待防止にもつながると考えている。保護者の悩みとして、産休・育休を取得後、仕事に復帰するにあたり、保育園に子どもを預けられるか不安を抱えている人も多い。○区の子育て支援制度は充実しているが、その情報が住民の皆さんに浸透できているかが課題でもある。
-------------------	--

②大田区立教育センター スクールソーシャルワーカー

スクールソーシャルワーカーは、大田区在住の小中学生で様々な困難を抱えている子どものため、福祉の視点をもって、学校、家庭、関係機関とともに考え、子どもを支援するためのコーディネーターの役割を果たしている。

<p>主な ヒアリング 内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○学校へ行くことができず、自宅で過ごしている子どもを又、学校へ行けるようにするため後押ししており、学校以外の地域の中での別の居場所を紹介し、地域で安心して暮らしていけるための支援も行っている。 ○不登校の子どもを支援することが多いが、発達に課題のある子どもの支援も増えている。 ○コロナ禍の中、タブレット端末での授業が推奨され、学校に行かなくても欠席扱いにはならないなど、登校にも変則的なルールが生じた。学校に行かない期間があり、日常生活での自由度が増した分、学校内での不自由さが多く目立つようになり、子どもたちが息苦しさを感じているのではないかと感じる。 ○不登校の子どもの中には、インターネット空間に仲間がいたり、放課後のみ友人と会って遊んだり、学校行事だけに参加したりなど、程よくつながりを保っているために、不登校であることを問題だと感じていない子どももいる。 ○保護者は新しい学習環境や仕組みへの理解が進まず、子どものインターネット、不登校などの問題に対応しきれていないように感じ、大人の方が困っているのではないかと印象を受けている。
----------------------------	---

③一般社団法人ともしび a t だんだん 代表理事

「気まぐれ八百屋だんだんは」、元居酒屋店舗を活用した八百屋で展開しているこども食堂で、無料または安価で栄養のある食事や温かな団らんを提供し、その他学習支援、産前産後保健室の活動等、活動は多岐に渡っている。

<p>主な ヒアリング 内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○子育て支援制度が充実してきた結果、できる人は他者に頼らず自分自身で制度を利用するため、身近な人をお願いする機会や、頼まれる機会が減り、人と人とのつながる機会が乏しくなってしまったのではないかと感じる。 ○子育て支援の制度を利用できている人は能力のある人で、利用できていない人が取り残されている社会になってしまっていると感じる。 ○子どもが助けてと言えるまでにはとても時間がかかり、助けを言葉にするには国語力、文章力が必要。自分の今の状態を正しく認識して伝えることができないのも、今の子どもの特徴と感じている。 ○特別な場所でなくて、子どもたちが、日常生活の中で、ふとした時に集まれる場があることが重要と感じている。
----------------------------	---

(2) 高齢者

④大田区地域包括支援センター新蒲田 センター長

地域包括支援センター新蒲田は、65歳以上の高齢者やそのご家族から介護・福祉に関する総合的な相談を受ける窓口でもある「地域包括支援センター」としての役割と、高齢者の元気維持・介護予防のためのプログラムを提供する「シニアステーション」の二つの機能を保持している。

主な ヒアリング 内容	<ul style="list-style-type: none">○コロナ禍で、地域活動を止めざるを得ない団体が多く、会員のフレイル化が著しい。○コロナ禍前と比べ、高齢者に対する虐待の相談が増えている。○年金を使うペース配分ができず、次の支給前に全て使用してしまい、食べる物がないなど、生活の相談も受けている。○8050問題の対応も多く、特に50歳代の精神障害を抱えた方への対応は他機関との連携が不可欠。地域の方の気づきも含め、早い段階からアプローチできると支援しやすくなると感じる。○月に2回開催しているスマートフォン講座は高齢者にとっても人気で、LINEを使いこなせるようになりたい人が多い。
-------------------	---

⑤大田区介護支援専門員連絡会 理事

大田区介護支援専門員連絡会は、介護支援専門員（ケアマネジャー）としての役割を十分認識し、会員相互の資質向上を図るとともに、大田区介護保険事業の充実と適正な運営に寄与することを目的に発足した会である。介護支援専門員のための研修会実施のほか、地域住民の相談窓口などを行うとともに、他団体や他地域とも連携・協力し、介護保険制度の適正な実施に役立つ活動を行っている。

主な ヒアリング 内容	<ul style="list-style-type: none">○高齢世代の人たちは本人だけでは解決できないような困り事を抱えても、自分で何とかできると思っている方が多いように感じる。○高齢者の方が、適切に自分の権利を行使できるようにサポートし、あるいはそのための環境を整えることも、今後必要とされている。○高齢単身・夫婦のみ世帯においても、年金だけでは生活ができないため、経済的な相談や対応を行うことも増えてきた。
-------------------	--

(3) 障害者

⑥大田区立障がい者総合サポートセンター さぼーとぴあ 管理者/相談員 (社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会)

障がい者総合サポートセンターは、様々な障がいのある人を総合的に支援する拠点である。相談支援、居住支援、地域交流支援、就労支援、短期入所、発達障がい児支援、地域交流カフェの営業、施設の貸し出しなどを行っている。

主な ヒアリング 内容	<ul style="list-style-type: none">○コロナ禍で家族と一緒に過ごす時間が増えている。○家族の中に障がいのある方がいる場合には、障がいのある家族と過ごす時間が増えたことで、周りの家族が生きづらさを感じたり、疲弊して困ったりしている人が多くなっている印象を受ける。○障がい者から直接相談を受けるというケースよりも、何かしらの困りごとや周囲とうまくいっていない様子を身近な人が感じ取って、相談を受けるケースが多い。○障がい者を障がいのある人として見るのではなく、一人の人としてその人のやりたいことや理想とする日常生活を一緒に叶えていくということが重要。○施設に訪れる人の相談内容は多岐に渡る。相談員一人が持っている社会資源の情報には限界があり、一人で解決することは難しいため、多機関と情報共有を図り、効果的な情報提供につなげられるように努めている。
-------------------	---

⑦かまた・こうじや生活支援センター 施設長/相談員 (社会福祉法人プシケおおた)

かまた生活支援センターは、障がい（主に精神障がい）のある方のための居場所、相談を受け止める施設である。相談支援やオープンスペースの開放による地域活動の支援、プログラム活動を行っている。

主な ヒアリング 内容	<ul style="list-style-type: none">○様々な理由から引きこもりがちの方の家族からの相談で訪問をしている。障がいがある無しではなく、その方の不安や希望に寄り添いたいと考えている。○生きづらさを抱えた人や社会の中で居場所を求めている人、様々な困り事を抱えた人が訪れている。何かあってから行く場所ではなく、ふとした時に立ち寄ることが出来る場所、緩いつながりをくれる「まちなか保健室」のような存在になると良いと考えている。またそういう場所が地域にもっと増えると良い。○長期で入院している方の退院支援を行っているが大田区外の遠方の病院が多く、退院支援事業者やその受け皿が増え、誰もが住みやすい大田区になればと考えている。
-------------------	---

(4) 生活困窮者

⑧大田区生活再建・就労サポートセンターJOBOTA 所長 (社会福祉法人やまて福祉会)

大田区生活再建・就労サポートセンターJOBOTAは、経済的、精神的な問題、就労についての問題などさまざまな課題を抱えた方のための相談窓口である。コロナ禍の影響を受けて20代の相談者が増加した。サービス業や派遣就労等に従事する若者の就労、家賃等の支払い、メンタルヘルスに関する相談が多い。

主な ヒアリング 内容	<ul style="list-style-type: none">○コロナ前と比べて生活保護制度につなぐ相談者が大幅に増えた傾向は見られない。住居確保給付金の対象者の拡大や、社会福祉協議会の特例貸付、その他の臨時的な給付金施策等の活用による効果があったと考えている。○課題が複合化している相談者には、メンタルヘルスに配慮しながら寄り添って話を聞き、一つずつ課題整理をし、ともに行動目標に取り組む姿勢が求められる。役立つ社会資源の情報提供だけでなく、他機関の窓口まで同行支援することで、相談者を取り巻く地域の応援団を形成することが重要と考えている。○相談したくても相談所まで来られない状況の人もいる。誰にも相談できず孤立し、生活が逼迫した結果、無力感が増し、意思決定も難しくなっていく。そのため他機関と連携し、相談者を早期発見するアウトリーチ支援が必要と考えている。
-------------------	---

⑨日常生活支援居住施設 春風寮 所長 (社会福祉法人有隣協会)

日常生活支援居住施設の春風寮は、生活困窮者支援として、失業や病気などで住居を失った人を一時的に保護し、心身の健康回復を図るとともに、就労や住居の確保の支援を通じて地域社会の復帰を促している。入所後1年間で一人暮らしを安心してできるように支援計画をつくり、住居の確保や見守りを行いながら利用者の自立を促す寄り添い型宿泊所である。

主な ヒアリング 内容	<ul style="list-style-type: none">○アパートに住んでいたが、何かしらの事情でアパートを立ち退くことになり、次の住居が見つからない、あるいは病院に入院して退院後の住居がないなどといった事情で利用する高齢世代が多い。○施設周辺には、商業施設が比較的遠く、外出する機会や場が少ないため、外に出るきっかけがなく、施設にこもったままの人もおり、結果として、フレイル状態になってしまう傾向がある。○男性の利用者は、今までの生活において近隣の人と交流を持った経験が少ない方もいる。施設の生活にて、どのように余暇を使うかの選択の際、地域で仕事やボランティア、余暇活動を送るための情報を目にする機会も少ない。また施設側もそれらの情報を提供するためのネットワークが脆弱であり、利用者のニーズに合いそうな地域活動について紹介する機会が少なくなっている。
-------------------	--

(5) 若者・その他

⑩大田区ひきこもり支援室SAPOTA 室長 (社会福祉法人やまて福祉会)

大田区ひきこもり支援室SAPOTAは、ひきこもり状態にある人やその家族が抱える悩みを、一緒に考え、サポートする相談窓口で、令和4年5月に開設された。フルタイムで仕事をしている人でも週末のみひきこもり状態にある人や、インターネット空間に友人がいても現実の世界では、ひきこもり状態の方など、厚生労働省が示すひきこもりの定義である「自宅にひきこもって学校や仕事に行かずに、家族以外との親密な対人関係がない状態が6ヵ月以上続いている状態」に、当てはまらない利用者も多く、その対応が求められている。

主な ヒアリング 内容	<ul style="list-style-type: none">○本人が来訪しないケースが圧倒的に多い。家族が面談に来ており、解決しようと努めている。○仕事をしていたが、パワハラや仕事が合わず離職してそのままひきこもり状態になっている人もいる。○中高年の方は、若い時に相談・解決に至らず、そのまま年齢を重ねている状態が多い。○相談は希望しないが、自分が求められる居場所があるなら行ってみたいという気持ちになる方もいる。相談が目的でなくても、居場所として捉えてもらい、外に出るきっかけとなってくれば良いと考えている。○フラットおおたは居場所を通じた社会性の回復を主とした事業であるため、手帳関連等の各種手続きはSAPOTAといった役割分担をし、適宜連携している。
-------------------	--

⑪大田区若者サポートセンター フラットおおた センター長
 (NPO法人育て上げネット)

フラットおおたは、概ね15歳から39歳までの若者を対象とした相談支援・居場所スペースで、令和4年10月に開設された。本人及びその家族からの相談を受け、本人の状況に応じた情報提供や助言を行うとともに、関係機関と連携し適切な支援につなげている。若者が気軽に、ゆっくりと話せる環境の整備や、社会とのつながりを段階的に回復する支援を実施しており、交流や活躍の場を通じた、安心感及び自己肯定感の醸成並びに社会的自立に向けた支援を図る場を運営している。

<p>主な ヒアリング 内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○10代～20代前半の利用者が多い。30代の利用もあるが、何か目的を持って訪れるケースが多い。 ○利用者に共通しているのは孤独感を抱いている点である。フルタイムで働いている人でも会話する他者が身近におらず、孤独感を抱いたり、将来に対する不安を抱えていたりする。 ○他者と一緒に何かを行う楽しさをここで体験し、一緒に生活することの前向きな経験を積んでもらい、その過程で自らの元気・活力を取り戻し、次に何がしたいという自らの発意が生まれてくることを、我慢強く待ってあげることも重要。 ○フルタイムで働いている人は困っていないと思われがちだが、そういう人の相談する場がない。働いていない人の支援や生活に困っている人の支援は充実しているが、フルタイムで働いている人に対する支援は乏しいというのが現状である。 ○若者がコロナ禍で経験しづらかった文化的な体験や通過儀礼などを経験できる機会（青春の追体験）を設けている。
----------------------------	---

⑫東邦大学看護学部 学生（4年生）

看護学部に所属する4年生で、急性期医療を提供する付属病院での実習だけでなく、地元大田区での住民活動等にも参加しながら、地域での暮らしや看取りまで見据え、治す医療・支える医療について学んでいる。

主な ヒアリング 内容	<ul style="list-style-type: none">○大学2年生の時に新型コロナウイルス感染症の影響を受け、オンライン授業の期間があった。新しい友人やつながりは作りづらかったが、通学時間を身近な友人などと過ごす時間に使うことができるようになったため、身近な友人などとはより深く交流できた。○相談できる場に求めることとしては、相談窓口といった堅くて重苦しい雰囲気ではなく、親しみやすい空間や、飲食が可能なカフェのような空間、気軽に会話できる環境が望ましい。相談相手の年代は同世代よりも、少し年齢を重ねていて、ちょっとした助言をしてくれる人の方が良い。○学生を含め若い世代が、地域活動やボランティア活動に参加してもらうには、徒歩圏内で参加できること、活動内容が具体的に示されていること、拘束時間が1～2時間と負担の小さいもの、休日の朝ではなく午後にできることなどが、条件としてあると参加したいと思う。
-------------------	--

第5章 実態調査の結果に基づく 次期計画策定に向けた考え

（１）大田区版「地域共生社会の実現」に向けて

大田区は、現在の地域福祉計画の基本理念「ともに支えあい地域力ではぐくむ安心して暮らせるまち」に基づき、「複合課題に取り組む個別支援」、「支援と共生の地域づくり」の２つを取組みの柱とし、大田区版「地域共生社会の実現」という目標を掲げ、地域の皆様とともに取組みを推進してきた。

令和５年度には、区が実施主体となり、「包括的相談支援」・「参加支援」・「地域づくり支援」による包括的な支援体制を目指し、分野を超えた部局横断の連携体制を整備していくために、「重層的支援体制整備事業」を実施する。

次期計画期間中には、団塊の世代がすべて 75 歳以上となる 2025 年を迎え、その先の 2040 年には、高齢者人口は増え続ける中、現役世代（担い手）が急減することで、福祉分野においても、介護・福祉における人手不足、社会保障費の更なる増大が懸念されている。また、核家族化やひとり暮らし世帯、人口減少等が進む中、地域における支え合い機能が、今後さらに低下していくことも想定される。

その中で、次期計画においては、「支え手」「受け手」という関係性を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、世代や分野を超えつながら、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域を共に創っていく「地域共生社会の実現」に向けた取組みのより一層の推進が求められる。

（２）調査結果から次期計画策定に向けて

①気軽に相談が受けられる仕組みづくり

区民の日常の悩みや困りごとについての設問では、複数の悩みを抱えている方が多く、複合課題への対応は、引き続き重要である。

また、悩みや困りごとの相談先についての設問では、区の窓口や専門機関よりも、親族や知人など、多くの方が身近な人を相談先に挙げている。

次期計画では、重層的支援体制整備事業における包括的な相談支援体制の強化に加えて、日常のつながりの中で、気軽に相談が受けられる仕組みづくりも求められている。

②地域活動への参加の仕組みづくり

区民の地域活動への参加意向の設問では、活動の内容次第で、８割を超す方が地域活動・ボランティア活動への参加意欲を示しており、世代・分野を問わず、区民一人ひとりが、それぞれの経験や強みに応じて、地域活動に参加できる仕組みづくりの検討も進めていく。

③他者とのつながりや自らの居場所を持てる地域づくり

新型コロナウイルスの感染拡大以降、対面でコミュニケーションする機会が減り、人と人とのつながりの希薄化が進んでいく中、現状の区民の孤立・孤独感への影響については、「家族や友人等と話す頻度が高い」人や「自宅以外で居心地の良い場所がある」人は、社会からの孤立を感じる事が少ない傾向にあることが分かった。この結果を踏まえ、地域社会からの孤立を防ぐためには、住民同士のつながりや活躍の場、安心できる地域の居場所が重要と考える。

(3) 総括

令和5年度には、「大田区地域福祉計画（大田区成年後見制度利用促進基本計画）」、「おおた高齢者施策推進プラン」、「おおた障がい施策推進プラン」が、共に策定期を迎える。また、地域福祉に関わる様々な機関・団体の連携の中核を担う大田区社会福祉協議会の「大田区地域福祉活動計画」（リボン計画）も、同時期に策定を行うことから、各計画策定にあたっては、密接な連携のもと、整合性を図りながら、策定を進めていく。

そして、大田区版「地域共生社会の実現」という目標を、多くの区民・地域団体・福祉関係者等の皆様と共有し、包摂的な地域社会を目指す計画策定に取り組んでいく。

第6章 調査票

1 区民を対象とした調査票

いっばんくみん
一般区民

おおたくちいきふくしけいかくさくてい 大田区地域福祉計画策定のためのアンケート調査

ひごろ おおたくせい きょうりょくたまわ ところ おんれいもう あ
日頃より、大田区政にご協力賜りまして、心より御礼申し上げます。
おおたく くみん へいじ さいがいじ ちいきしゃがい いちいん あんしん
大田区では、区民が平時はもとより災害時においても、地域社会の一員として、安心して、そ
ひと せいつつ おく おおたくちいきふくしけいかく さくてい たいけいてき かんけいしやく
のりしく、充実した生活が送れるように、「大田区地域福祉計画」を策定して体系的に關係施策
てんかい
を展開しています。

ほんちようさ れいわ ねんど どうけいかく みなお ひか さいじよう くみん むさくいちゅうしゆつ
本調査は、令和5年度での同計画の見直しを控え、18歳以上の区民から無作為抽出した3,000
にん かた たいしよう ひごろ ちいき かか く ちいきふくしけいさく さくてい たいけいてき かんけいしやく
人の方を対象に、日頃の地域との関わりや区の地域福祉政策などについて、ご意見をお聞かせい
ただきたいと考えています。

ちようさ むきめい おこな こた ないよう こうひょう いっさい
調査は無記名で行い、お答えいただいた内容は、すべて統計的に処理しますので、個々のご
かいどう かか ないよう こうひょう いっさい
回答やプライバシーに関わる内容が公表されることは、一切ありません。

ほんちようさ しゆし りかい きょうりょく ねが
本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

れいわ ねん がつ
令和4年11月
おおたく
大田区

■ ご記入にあたってのお願い

- 回答は、原則として封筒の宛名のご本人がご記入ください。ただし、ご本人の心身の状況などにより回答が困難な場合は、ご家族の方、介助者の方などがご本人の立場でお答えください。
- 令和4年10月1日現在の状況でお答えいただき、大田区外に転出された方は回答不要です。
- 設問ごとにあてはまる回答の番号を選び、その番号を○で囲んでください。「その他」をお選びいただいた場合は、()内になるべく具体的に記入ください。
- 回答方法は《紙の調査票》または《WEB》の2種類あります。
- 《WEB》で回答される方は、下の二次元コードからアクセスしていただき、IDとパスワードをご入力の上、ご回答ください。
- 回答締め切り日は【12月2日(金)】です。※当日消印有効

■ WEBで回答される方へ

- WEBで回答していただける方は、右記の二次元コードを読み取るか、以下のURLを入力すると、回答フォームにアクセスすることができます。IDとパスワードを入力の上、回答にお進みください。



URL <https://forms.gle/eCLPzDEcF6RK4rf8A>

ID

パスワード

■ 本調査に関するお問い合わせ先

おおたくふくしせふふくしかんりか
大田区福祉部福祉管理課 TEL 03-5744-1721 FAX 03-5744-1520

1 あなた自身のことについて

問1 あなたの性別を教えてください。(○は1つ)
 ※性的マイノリティを考慮した選択肢を記載しています。戸籍上の性別に関係なく、ご自身の主観で
 ご回答ください。

- | | | |
|------|------|-------------------|
| 1 男性 | 2 女性 | 3 わからない、または答えたくない |
|------|------|-------------------|

問2 あなたの年齢を教えてください。(○は1つ)

- | | | | |
|----------|----------|-----------|-----------|
| 1 18～19歳 | 5 35～39歳 | 8 50～54歳 | 11 65～69歳 |
| 2 20～24歳 | 6 40～44歳 | 9 55～59歳 | 12 70～74歳 |
| 3 25～29歳 | 7 45～49歳 | 10 60～64歳 | 13 75歳以上 |
| 4 30～34歳 | | | |

問3 現在、あなたはどなたと同居しているか教えてください。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------|-----------|
| 1 ひとり暮らし | 7 兄弟姉妹 |
| 2 父親 | 8 孫 |
| 3 母親 | 9 祖父・祖母 |
| 4 配偶者(夫・妻・内縁関係の方も) | 10 その他の親戚 |
| 5 子ども(未婚) | 11 その他 |
| 6 子ども(既婚) | () |

問4 現在、あなたが住まいの地区を教えてください。(○は1つ)

- | | | | |
|---------|-----------|---------|---------|
| 1 大森東 | 15 西馬込 | 31 久が原 | 47 東六郷 |
| 2 大森南 | 16 北馬込 | 32 南千束 | 48 西六郷 |
| 3 大森中 | 17 池上 | 33 北千束 | 49 南六郷 |
| 4 大森西 | 18 京浜島 | 34 石川町 | 50 仲六郷 |
| 5 大森北 | 19 東海 | 35 仲池上 | 51 下丸子 |
| 6 大森本町 | 20 城南島 | 36 東雪谷 | 52 矢口 |
| 7 平和島 | 21 東嶺町 | 37 南雪谷 | 53 東矢口 |
| 8 昭和島 | 22 西嶺町 | 38 上池台 | 54 多摩川 |
| 9 山王 | 23 北嶺町 | 39 東糀谷 | 55 東蒲田 |
| 10 平和の森 | 24 田園調布南 | 40 西糀谷 | 56 南蒲田 |
| ふるさとの浜辺 | 25 田園調布本町 | 41 北糀谷 | 57 西蒲田 |
| 公園 | 26 田園調布 | 42 羽田旭町 | 58 蒲田 |
| 11 東馬込 | 27 雪谷大塚町 | 43 羽田 | 59 蒲田本町 |
| 12 南馬込 | 28 鶴の木 | 44 本羽田 | 60 新蒲田 |
| 13 中馬込 | 29 千鳥 | 45 羽田空港 | 61 令和島 |
| 14 中央 | 30 南久が原 | 46 萩中 | |

問5 あなたの^お大田区^たでの^き居住年数^{ねんすう}を教えてください。(○は1つ)
 ※^お大田区^た内で^ひ引越^{ひきこ}し等を^おされている^{ばい}場合は、^ご合計^{けい}の^{ねんすう}年数^{ねんすう}をお^{えら}びください。

- | | | | |
|---|------------------------------------|---|-------------------------------------|
| 1 | 1年未満 ^{ねんみまん} | 4 | 10年以上～20年未満 ^{ねんいじょう ねんみまん} |
| 2 | 1年以上～5年未満 ^{ねんいじょう ねんみまん} | 5 | 20年以上～30年未満 ^{ねんいじょう ねんみまん} |
| 3 | 5年以上～10年未満 ^{ねんいじょう ねんみまん} | 6 | 30年以上 ^{ねんいじょう} |

問6 あなたはこれから^お大田区^たに住^あみたいと思^{おも}いますか。(○は1つ)

- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1 | ずっと住 ^す み続けたい ^{つづ} | 4 | 大田区外 ^お へ移 ^{うつ} りたい |
| 2 | 当分 ^{とうぶん} は住 ^す み続けたい ^{つづ} | 5 | わからない |
| 3 | できれば大田区外 ^お へ移 ^{うつ} りたい | | |

問7 あなたの^し就労^{しゅうらう}形態^{けい}を教えてください。(○は1つ)

- | | | | |
|----|--|--|--|
| 1 | 会社 ^{かいし} 経営 ^{けい} ・役 ^{やく} 員 ^{いん} | | |
| 2 | 正社員 ^{せいしやいん} ・正職員 ^{せいしよくいん} | | |
| 3 | 派遣 ^{はいせん} ・契 ^{けい} 約 ^{やく} 社員 ^{しやいん} | | |
| 4 | パートタイム・アルバイ ^あ ト | | |
| 5 | 内職 ^{ないしょく} | | |
| 6 | 自営業 ^{じえいぎやう} (農 ^{のう} 業 ^{ぎやう} ・漁 ^{りく} 業 ^{ぎやう} を含む) | | |
| 7 | 家族 ^{かぞく} 従 ^{じゆう} 業 ^{ぎやう} 員 ^{いん} (家 ^か 業 ^{ぎやう} の手 ^て 伝 ^だ い) | | |
| 8 | 家事 ^{かじ} 専 ^{せん} 業 ^{ぎやう} | | |
| 9 | 学 ^{がく} 生 ^{せい} | | |
| 10 | その他 ^た () | | |
| 11 | 無 ^む 職 ^{しょく} (年 ^{ねん} 金 ^{きん} 受 ^{じゆう} 給 ^{きゅう} 等 ^{とう} を含む) | | |

問8 ^{しん}新^{がた}型^{がた}コ^かロ^んナ^あウ^いル^す感^{かん}染^{せん}症^{しやう}の^か感^{かん}染^{せん}拡^{かく}大^{だい}前^{ぜん}より^も、^あな^なた^がが^より^い層^{そう}大^{だい}切^{せつ}と思^{おも}う^よう^にな^なった^こと^をお^し教^おえて^くだ^さい。(○はいくつでも)

- | | | | |
|----|---|--|--|
| 1 | 家 ^か 族 ^{ぞく} の ^{たい} 大 ^{だい} 切 ^{せつ} さ | | |
| 2 | 友 ^{ゆう} 人 ^{じん} ・知 ^ち 人 ^{じん} の ^{たい} 大 ^{だい} 切 ^{せつ} さ | | |
| 3 | 近 ^{きん} 所 ^{じよ} づ ^き あ ^い の ^{たい} 大 ^{だい} 切 ^{せつ} さ | | |
| 4 | 直 ^{ちよく} 接 ^{せつ} 会 ^あ つて ^は 話 ^わ す ^こ と ^の 大 ^{だい} 切 ^{せつ} さ | | |
| 5 | 健 ^{けん} 康 ^{こう} な ^{しん} 心 ^{しん} 身 ^{しん} の ^{たい} 大 ^{だい} 切 ^{せつ} さ | | |
| 6 | 身 ^み 近 ^{ぢか} な ^い 医 ^い 療 ^{りょう} 機 ^き 関 ^{かん} を ^も つ ^こ と ^の 大 ^{だい} 切 ^{せつ} さ | | |
| 7 | 一 ^{いち} 日 ^{にち} 一 ^{いち} 日 ^{にち} の ^{たい} 大 ^{だい} 切 ^{せつ} さ | | |
| 8 | 安 ^{あん} 定 ^{てい} した ^し 仕 ^じ 事 ^{ごと} を ^も つ ^こ と ^の 大 ^{だい} 切 ^{せつ} さ | | |
| 9 | 貯 ^{ちよく} 蓄 ^{ちやく} の ^{たい} 大 ^{だい} 切 ^{せつ} さ | | |
| 10 | 趣 ^{しゆ} 味 ^み を ^も つ ^こ と ^の 大 ^{だい} 切 ^{せつ} さ | | |
| 11 | その他 ^た () | | |
| 12 | 特 ^{とく} に ^{ない} | | |

問9 あなたがふだん利用している SNS があれば教えてください。(〇はいくつでも)

- | | | |
|---|---------------------|--|
| 1 | LINE(ライン) | |
| 2 | Twitter(ツイッター) | |
| 3 | Instagram (インスタグラム) | |
| 4 | Facebook(フェイスブック) | |
| 5 | TikTok(ティックトック) | |
| 6 | その他() | |
| 7 | 利用していない | |

2 人とつながりや近所づきあいについて

問10 ふだん、あなたはどのくらい家族(同居を含む)・親族や知人・友人・職場の同僚等と話をしていますか(LINEやメール、電話等を含む)。(〇は1つ)

- | | | | |
|---|----------|---|-----------|
| 1 | ほぼ毎日 | 4 | 週1日くらい |
| 2 | 週4～5日くらい | 5 | ほとんど話をしない |
| 3 | 週2～3日くらい | | |

問11 問10 で回答した頻度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大前と比べ、どのように変化しましたか。(〇は1つ)

- | | | | |
|---|----------|---|----------|
| 1 | 以前よりも増えた | 3 | 以前よりも減った |
| 2 | 以前と変わらない | 4 | わからない |

問12 あなたが自宅以外で居心地のよい場所を教えてください。(〇はいくつでも)

- | | | |
|---|----------------------------|--|
| 1 | 職場・学校 | |
| 2 | 友人・知人の家 | |
| 3 | 趣味や余暇活動の場 | |
| 4 | 地域活動・ボランティア活動の場 | |
| 5 | 公共施設(図書館、公園等) | |
| 6 | インターネット空間 | |
| 7 | 利用している福祉施設(デイサービス、障がい者施設等) | |
| 8 | その他() | |
| 9 | 居心地のよい場所はない | |

問13 あなたはふだん、どの程度、社会からの孤立を感じるか教えてください。(〇は1つ)

- | | | | |
|---|-----------|---|--------|
| 1 | 全く感じない | 4 | たまに感じる |
| 2 | あまり感じない | 5 | 常に感じる |
| 3 | どちらともいえない | | |

問14 現在の暮らしにおいて、近所づきあいの程度を教えてください。(○は1つ)

- 1 家を行き来するなど親しいつきあいがある
- 2 立ち話をする程度
- 3 あいさつをする程度
- 4 近所づきあいはほとんどない

問15 今後、あなたはどのような近所づきあいをしたいですか。(○は1つ)

- 1 家を行き来するなど親しいつきあいがある
- 2 立ち話をする程度
- 3 あいさつをする程度
- 4 特につきあいをしたいと思わない

3 地域活動やボランティア活動について

問16 あなたが現在参加している、または過去に参加したことがある地域活動やボランティア活動があれば教えてください。(○はいくつでも)

- 1 自治会・町会での活動
- 2 お祭りなどの活動
- 3 まちの美化活動・リサイクル回収
- 4 防犯・防災・交通安全活動
- 5 子ども会やPTAの活動
- 6 高齢者に関わる活動
- 7 障がい者に関わる活動
- 8 子どもや子育て世代に関わる活動
- 9 外国人に関わる活動
- 10 文化・スポーツ振興に関わる活動
- 11 フードドライブ(未利用食品の寄付)の活動
- 12 災害ボランティアの活動
- 13 その他()
- 14 特に参加していない(参加したことはない)

問17 問16の選択肢のうち、あなたが参加してみたい地域活動やボランティア活動があれば、最も参加してみたい番号を1つご記入ください。

問18 あなたはどのような特徴があれば、地域活動やボランティア活動に参加したいと思いますか。(〇はいくつでも)

- 1 単発・短時間で参加できるもの
- 2 インセンティブ(ポイントや報酬等)がもらえる
- 3 自分のビジネススキルが活かせるもの
- 4 家族や友人・知人等と一緒に参加できるもの
- 5 自宅で活動できるもの
- 6 一人でも参加できるもの
- 7 自宅の近くで参加できるもの
- 8 その他()
- 9 特徴に関係なく参加したい
- 10 どのような特徴があっても参加したいと思わない

問19 あなたはどのようなきっかけがあれば地域活動やボランティア活動に参加したいと思いますか。(〇はいくつでも)

- 1 家族や友人などの身近な人に誘われたら
- 2 職場から活動への勧めがあれば
- 3 自分の家族(配偶者や子ども等)と一緒に参加するなら
- 4 活動している団体(自治会・町会含む)から直接誘われたら
- 5 活動に参加できるとわかる情報が得られれば
- 6 1回だけでも参加が可能な機会や場が身近にあれば
- 7 その他()
- 8 わからない

4 安全・安心な地域づくりについて

問20 現在、あなたは日常生活を送る上で悩みや不安、困り事を感じることがありますか。あれば教えてください。(〇はいくつでも)

- | | | | |
|---|------------------|----|------------|
| 1 | 自分の健康や病気、介護のこと | 7 | 仕事のこと |
| 2 | 家族の健康や病気、介護のこと | 8 | 子ども・子育てのこと |
| 3 | 家族・友人との人間関係 | 9 | 災害に関すること |
| 4 | 近所づきあい | 10 | その他() |
| 5 | 社会とのつながりや居場所について | 11 | 特にな |
| 6 | 収入・家計のこと | | |

問21 悩みや不安、困り事を解決するための行政情報やお知らせを入手するために、あなたが希望する媒体・手段を教えてください。(〇はいくつでも)

- | | |
|---|-----------------------------|
| 1 | 電話・訪問等で区役所や地域庁舎、特別出張所に直接問合せ |
| 2 | 区報 |
| 3 | 区の掲示板などで |
| 4 | 自治会・町会の回覧板などで |
| 5 | 大田区公式ホームページ |
| 6 | 大田区公式SNS(LINE や Twitter等) |
| 7 | その他() |
| 8 | 特にな |
| 9 | 行政情報やお知らせを入手する必要がない |

問22 あなたは悩みや不安、困り事を相談したいとき、誰に(どこに)相談しますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|----|---|
| 1 | 家族や親類 |
| 2 | 友人・知人 |
| 3 | 近隣住民 |
| 4 | インターネット上の仲間 |
| 5 | 自治会・町会 |
| 6 | 民生委員児童委員 |
| 7 | ボランティア団体・活動団体 |
| 8 | 主治医、看護師などの医療関係者 |
| 9 | 区役所・地域庁舎・特別出張所 |
| 10 | 区の専門機関(地域包括支援センター、障がい者総合サポートセンター、子ども家庭支援センター、キッズな、JOBOTA、SAPOTA、フラットおおた等) |
| 11 | その他() |
| 12 | 誰に相談したらいいかわからない |

問23 あなたが、ふだんの生活で悩みや不安、困り事を感じたときに、どのような対応や工夫があれば相談しやすくなると思いますか。(〇はいくつでも)

- 1 自宅の近くに相談先がある
- 2 自宅に相談員が来てくれる
- 3 電話やオンラインのビデオ通話で相談できる
- 4 メールやSNS、チャットにより相談できる
- 5 休日や夜間など、相談できる日時を増やしてくれる
- 6 ひとつの窓口で様々な相談ができる
- 7 相談時に子どもや高齢者等の見守りをしてくれる
- 8 その他()
- 9 特にない

問24 あなたはふだんの生活で、近隣の住民同士が自主的に支えあったり、助けあったりするために、何ができますか。(〇はいくつでも)

- 1 近隣の方に積極的に挨拶をする
- 2 近隣の方に日頃から積極的に声をかける
- 3 自治会・町会へ加入する
- 4 地域活動やボランティア活動へ参加する
- 5 その他()
- 6 何もする気はない

問25 あなたはふだんの生活で、サポートしてもらいたいときはありますか。もしあれば、どのようなときが教えてください。(〇はいくつでも)

- 1 生活上の悩み等、自分の話を聞いてほしいとき
- 2 掃除や買い物等の日常生活の支援をしてほしいとき
- 3 子どもの世話や見守りが必要なとき
- 4 家族の介護や見守りが必要なとき
- 5 自分が病気やけがで看護や人手が必要なとき
- 6 その他()
- 7 サポートしてもらいたいときはない

問26 災害時等の有事の際において誰かの助けが必要なときに、あなたは誰かを頼ったり、助けを求めることができますか。(〇は1つ)

- 1 求めることができる
- 2 どちらかといえば求めることができる
- 3 求めないで自分で何とかする
- 4 求めることはできない

問27 あなたは、災害(台風の^{さいがい}水害^{たいふう}等^{すいがいとうらく}含む)が起きた^お際に、どのような^{そな}備え^{ひつよう}が必要か、また自らがどのよう^{みずか}に動けばいいか(避難するべきか、自宅^{じたく}で待機すべきか)理解^{りかい}していますか。(○は1つ)

- 1 理解^{りかい}している
- 2 だいたい理解^{りかい}している
- 3 知らない・わからない

問28 もしもあなたが^{だいき}大規模^{ぼさいがい}災害^あに遭ったとき、お住まいの^ち地域^{たいき}でどのような^{かつどう}活動^{おも}ができると思いますか。(○はいくつでも)

- 1 身近^{みぢか}な人^{ひと}への声^{こゑ}かけ・安否^{あんぴ}確認^{かくにん}(連絡^{れんらく}代行^{だいこう}含む)
- 2 地域^{ちいき}の人^{ひと}たちと災害^{さいがい}状^{じょう}況^{きやう}を共有^{きやうゆう}すること
- 3 水^{みず}や食料^{しょくりょう}の提供^{ていきよう}・炊き出し^た等の協^た力^{りき}
- 4 避難^{ひなん}所^{じょ}や安全^{あんぜん}な場所^{ばしよ}への誘導^{ゆうどう}・移動^{いどう}支援^{しえん}
- 5 応急^{おうきゅう}処置^{しよ}・けが^{にん}が人の救^{きゅう}助^{じょ}
- 6 介助^{かいじょ}・介護^{かいご}が必要^{ひつよう}な人^{ひと}への支^し援^{えん}等
- 7 災害^{さいがい}ごみ^{ごみ}の搬出^{はんしゅつ}
- 8 発災^{はつさい}後の生活^{せいかつ}復旧^{ふくきゅう}へのボランテア^{しえん}支援^{しえん}
- 9 その他()
- 10 何も^{なに}できない

問29 あなたは、性別^{せいべつ}や年齢^{ねんれい}、障^{しょう}害^{がい}、異^いなる国籍^{こくけき}など、様^{さま}々な特^{とく}徴^{てい}や個^こ性^{せい}を持つ^も人^{ひと}たち^{たい}に対して^{たい}思い^{おも}やりや優^{やさ}しさ^もを持って^も接^{せつ}することについて、どのよう^{かんが}にお考^{かんが}えですか。(○は1つ)

- 1 ためらいがなく、自然^{しぜん}に接^{せつ}することができる
- 2 どちらともいえない
- 3 自然^{しぜん}に接^{せつ}することについて、ややためらいがある

5 将来の生活について

問30 もしもあなたが、病気や加齢により判断能力が低下した時に、安心して暮らすために心配なことについて、以下の中から3つまで教えてください。(〇は3つまで)

- | | |
|------------------------|---------------------------|
| 1 相続や遺言のこと | 12 葬儀やお墓の維持・管理のこと |
| 2 金銭管理や財産管理のこと | 13 配偶者や子どもなど家族のこと |
| 3 不動産(家や土地)の管理のこと | 14 世話をしているペットのこと |
| 4 住まいに係る費用や賃貸住宅の更新など | 15 頼れる人がいないこと |
| 5 税金に関すること | 16 地域で親しい付き合いをしている人がいないこと |
| 6 収入のこと(就労による収入や年金等) | 17 どこに相談したらいいかわからない |
| 7 自分が希望する年齢まで働くこと | 18 考えたことがない |
| 8 自身が医療や介護サービスを受けること | 19 まだ、考えたくない |
| 9 自分の医療や介護の費用のこと | 20 その他() |
| 10 身元保証(病院の入院や施設入所手続き) | 21 特になし |
| 11 官公庁への手続き | |

将来、病気や加齢により、判断能力が低下した時に、あなたに代わって、あなたの権利を守る制度である「成年後見制度」というものがあります。この制度は、財産管理や契約をする際、判断することが困難な方を保護し、支援する制度です。

問31 あなたは「成年後見制度」の内容を知っていますか。(〇は1つ)

- | |
|--------------------|
| 1 内容をよく知っている |
| 2 大体的内容は知っている |
| 3 名前は知っているが内容は知らない |
| 4 全く知らない |

問31で「1」～「2」を選んだ方に

問32 「成年後見制度」をどのように知りましたか。(〇はいくつでも)

- | |
|-------------------------------|
| 1 テレビやラジオ、新聞などで知った |
| 2 広報誌やパンフレットなどで知った |
| 3 インターネットやSNSなどで知った |
| 4 家族・親族、友人・知人が制度を利用しているので知った |
| 5 区役所や地域包括支援センターなどで知った |
| 6 ケアマネジャーや介護職員、障がい者の支援員等から聞いた |
| 7 講演会や相談会で知った |
| 8 その他() |

問33 あなたは「成年後見制度」を利用したいと思いますか。(〇は1つ)

- 1 利用したい
- 2 利用したいと思わない

問33で「1」を選んだ方に

問34 あなたが、成年後見制度を利用する場合は、誰に成年後見人として、財産管理や身上保護などを支援してほしいですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|------------------------|------------|
| 1 家族や親族 | 6 市民後見人※ |
| 2 近隣の住民 | 7 誰でもかまわない |
| 3 友人・知人 | 8 その他() |
| 4 社会福祉協議会(成年後見センター) | 9 わからない |
| 5 弁護士や司法書士、社会福祉士などの専門職 | |

※市民後見人とは、社会貢献への意欲が高い一般市民の方で、市区町村等が実施する養成研修などを受講するなどして、成年後見人等として必要な知識・態度を身につけた方の中から、家庭裁判所が成年後見人等として選任した方

問35 あなたは、成年後見制度が利用しやすいものとなるためには、どのようなことが必要であると思いますか。(〇はいくつでも)

- 1 成年後見制度内容を知る機会が充実すること(パンフレットやホームページ、説明会など)
 - ・区報や区のホームページで広報されること
 - ・成年後見制度の分かりやすいパンフレットや動画、ウェブやSNS などがあること
 - ・イベントやセミナー、説明会などが身近で開催されること
- 2 成年後見制度利用の方法などに関して、身近な相談窓口があること
 - ・大田区社会福祉協議会(おおた成年後見センター)だけでなく、地域包括支援センター、介護事業者、医療関係者、民生委員等へ相談できること
 - ・弁護士、司法書士、社会福祉士などへ身近に相談できること
- 3 成年後見制度を利用するための手続きなどが、分かりやすくなること
 - ・申請書や手続きが簡素化されること
 - ・分かりやすい言葉に変更されること
- 4 成年後見人の役割や実際に利用している人の具体的な事例を知ることができること
 - ・こんなトラブルが回避できた、不動産手続きができた、施設入所ができたなどの事例
 - ・障害者の親亡き後の不安が解消されたなどの事例
- 5 成年後見制度を利用するための費用の不安がないこと
 - ・申立てに係る費用や成年後見人等への報酬助成が充実されること
- 6 財産の横領などの不正が行われないような仕組みがあること
- 7 その他()
- 8 わからない

6 区の地域福祉施策について

問36 大田区社会福祉協議会は、地域の皆さんの地域活動・ボランティア活動をサポートしています。大田区社会福祉協議会が行っている活動で、あなたが知っている活動はありますか。(〇はいくつでも)

- 1 フードドライブ事業(未利用食品を集めて、必要な方に配布する事業)
- 2 こども食堂の推進
- 3 赤い羽根共同募金・歳末たすけあい募金運動
- 4 車いす無料貸出事業
- 5 使用済切手/インクカートリッジの回収等
- 6 災害ボランティア
- 7 絆サポーター事業
- 8 子育て世帯向けの食料支援(ほほえみごはん事業)
- 9 地域福祉コーディネーター
- 10 その他()
- 11 知らない

問37 あなたは今後、福祉分野について区が特に力を入れて取り組むべきことは次のうちどれだと思いますか。(〇はいくつでも)

- 1 区民が地域に関わるきっかけづくりの充実
- 2 地域で活動する人と人の交流の促進
- 3 区民や団体が地域で新たに福祉活動を始めるための支援
- 4 ユニバーサルデザインやバリアフリーの視点を踏まえた環境づくり
- 5 どの世代にも応じた支援体制の充実
- 6 複数の課題を抱えた人や世帯に対する相談体制の充実
- 7 地域住民同士で支えあう(助け合う)意識の醸成
- 8 福祉の専門的な人材の育成
- 9 福祉の関係機関や区内事業所等との区の連携強化
- 10 世代や文化、個人の価値観等の多様性を認め合う意識の醸成
- 11 その他()

ご協力いただき誠にありがとうございました。

いただいたご意見は、次期大田区地域福祉計画の作成に活かしてまいります。
同封の返信用封筒(切手不要)に入れ、12月2日(金)までにご投函ください。

2 地域団体を対象とした調査票

ちいきだんたい
地域団体

おおたくちいきふくしけいかくさくてい 大田区地域福祉計画策定のためのアンケート調査

ひごろ おおたくせい きょうりよくたまわ こころ おんれいもう あ
日頃より、大田区政にご協力賜りまして、心より御礼申し上げます。
おおたく くみん へいじ さいがいじ ちいきしゃがい いちいん あんしん
大田区では、区民が平時はもとより災害時においても、地域社会の一員として、安心して、そ
のひとらしく、充実した生活が送れるように、「大田区地域福祉計画」を策定して体系的に関係施策
を展開しています。

ほんちようさ れいわ ねんど どうけいかく みなお ひか ちいき かつやく じちかい ちようかい くみん
本調査は、令和5年度での同計画の見直しを控え、地域でご活躍されている自治会・町会、区民
かつどうだんたい びんかんきぎよう びんせいいいんじどういん しゃかいふくしほうじんどう みなさま たいしよう ひ かつどうじようきよう
活動団体、民間企業、民生委員児童委員、社会福祉法人等の皆様を対象に、日ごろの活動状況
や困っていること、他団体との連携状況、地域福祉活動の活性化に必要なことについて、ご意見
をお聞かせいただきたいと考えています。

お答えいただいた内容は、すべて統計的に処理しますので、個々のご回答やプライバシーに
関わる内容が公表されることは、一切ありません。

ほんちようさ しゅし りかい きょうりよく ねが
本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

れいわ ねん がつ
令和4年11月
おおたく
大田区

■ ご記入にあたってのお願い

- 原則、封筒の宛名の方が、令和4年10月1日現在の状況でご回答ください。
- 設問ごとにあてはまる回答の番号を選び、その番号を○で囲んでください。「その他」をお選び
いただいた場合は、()内になるべく具体的に記入ください。
- 回答方法は《紙の調査票》または《WEB》の2種類あります。
- 《紙の調査票》で回答される方は、この調査票に回答を直接記入いただき、同封の返信用
ふうとう きってふよう い ゆうびん どうかん
封筒（切手不要）に入れて郵便ポストにご投函ください。
- 回答締め切り日は【12月2日（金）】です。※当日消印有効

■ WEBで回答される方へ

- WEBで回答していただける方は、右記の二次元コードを読み取るか、
以下のURLを入力すると、回答フォームにアクセスすることができます。IDとパスワードを入力の上、回答にお進みください。



URL <https://forms.gle/cARMqcESCZvxNgCh9>

ID

パスワード

■ 本調査に関するお問い合わせ先

おおたくふくしほふくしかんりか
大田区福祉部福祉管理課 TEL 03-5744-1721 FAX 03-5744-1520

1 貴団体の概要について

問1 貴団体名を教えてください。
 ※封筒に記載のある団体名を教えてください。
 ※民生委員児童委員の方は、所属する地区民生委員児童委員協議会の名称をご記入ください。
 ※自治会・町会、民生委員児童委員の方は、問2～問5まで回答不要です。問6へお進みください。

問2 貴団体が地域で活動を行おうと思っただきかけを教えてください。(〇はいくつでも)

- 1 友人や知人と何かを始めたくて
- 2 近所の人と呼びかけあって
- 3 同じ悩みを抱えた人が集まって
- 4 趣味のサークルなどが発展して
- 5 職場の同僚と呼びかけあって
- 6 区や社会福祉協議会から呼びかけられて
- 7 会社で地域貢献活動に力を入れるようになったから
- 8 その他()
- 9 わからない

問3 貴団体の主な活動エリアを教えてください。(自由に記入)

- 1 活動エリアを限定していない
- 2 主な活動エリアがある(具体的に:)

問4 貴団体は、地域での活動を始めてどのくらいになりますか。通算の年数で教えてください。(〇は1つ)

- | | |
|-------------|---------------|
| 1 1年未満 | 4 5年以上～10年未満 |
| 2 1年以上～3年未満 | 5 10年以上～20年未満 |
| 3 3年以上～5年未満 | 6 20年以上 |

問5 貴団体の活動者数を教えてください。(数字を記入)
 ※ただし、民間企業や社会福祉法人の方は、地域貢献活動に係る取り組みに直接携わっている方または参加している方の人数を教えてください。

 人

2 活動状況について

問6 貴団体が取り組んでいる主な活動を教えてください。(〇はいくつでも)

- 1 季節行事の運営(お祭りや伝統行事など)
- 2 まちの美化活動(ゴミ出し、リサイクル、放置自転車、花壇の植栽の手入れなど)
- 3 防犯・防災対策(巡回パトロール、情報提供、避難訓練など)
- 4 交通安全対策(交通安全運動期間中の見守り、交通事故防止啓発活動など)
- 5 高齢者向けの支援(見守りや定期訪問、健康づくりなど)
- 6 障がい者向けの支援(施設訪問、交流活動など)
- 7 子どもや子育て世代のための支援
(子育ての悩み相談、育児グループの支援、子どもの居場所の提供など)
- 8 青少年健全育成のための支援(不登校、ひきこもり対策など)
- 9 生活困窮者向けの支援(就労支援、フードドライブなど)
- 10 社会教育(生涯学習、スポーツ、文化活動など)
- 11 その他()
- 12 検討しているものの、今のところはない

問7 問6の選択肢のうち、貴団体が今後取り組んでみたい活動の番号をご記入ください。(いくつでも可)

--

問8 貴団体では、地域の居場所の提供となるような取り組みに興味・関心はありますか。(〇は1つ)

- 1 興味・関心があり、すでに取り組んでいる
- 2 興味・関心はある
- 3 特くない

問9 貴団体の活動に参加されている区民の方から生活上の困りごとの相談を受けたことがありますか。(〇は1つ)

- 1 受けたことがある
- 2 受けたことはない

問10 貴団体は、地域での活動に必要な行政情報をどこから入手していますか。(〇はいくつでも)

- 1 区役所の窓口や区の掲示板
- 2 区報
- 3 区のホームページ
- 4 区のSNS
- 5 社会福祉協議会を通じて
- 6 民生委員児童委員を通じて
- 7 福祉サービス事業所や職員を通じて
- 8 他の団体を通じて
- 9 友人・知人などの知り合いを通じて
- 10 その他()
- 11 特になし

問11 問10の選択肢のうち、貴団体が地域での活動に必要な行政情報をどこから入手したいですか。番号をご記入ください。(いくつでも可)

--

問12 貴団体の活動を充実させるために、行政に求める支援を教えてください。(〇はいくつでも)

- 1 活動に必要な情報を提供してほしい
- 2 活動をするための場所・施設等の紹介をしてほしい
- 3 団体運営上の助言をしてほしい
- 4 助成金の提供をしてほしい
- 5 他団体との連携を支援してほしい(ネットワーク化、交流会の開催など)
- 6 活動の質を高める研修を開催してほしい
- 7 区民に対して活動のPRをしてほしい
- 8 その他()
- 9 特になし

3 困っていることや連携状況について

問13 貴団体が困っていることを教えてください。(〇はいくつでも)

- | | |
|-------------------|--------------------------|
| 1 活動者の確保が難しい | 10 他の団体と交流する機会が乏しい |
| 2 指導者・リーダーが育たない | 11 ニーズに合った活動ができていない |
| 3 活動者の高齢化 | 12 活動がマンネリ化している |
| 4 活動に必要な機材の不足 | 13 活動範囲が広がらない |
| 5 活動資金が足りない | 14 活動の専門知識や技術などの研修機会が少ない |
| 6 活動拠点(場所)の確保が難しい | 15 事故への責任、保険に不安 |
| 7 情報発信する場や機会が乏しい | 16 その他() |
| 8 情報発信のデジタル化ができない | 17 特にない |
| 9 活動支援の情報が得にくい | |

問13で「1」～「16」を選んだ方に

問14 問13で回答した困っていることのうち、貴団体が他の団体や機関と連携して解決したいことの番号をご記入ください。(いくつでも可)

問15 貴団体は地域での活動を行ううえで、以下のような団体や機関と連携・協力関係がありますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| 1 区役所・地域庁舎・特別出張所 | 13 PTA(おやじの会等含む) |
| 2 社会福祉協議会 | 14 青少年対策地区委員会または青少年委員 |
| 3 生活再建・就労サポートセンター JOBOTA | 15 保護司会 |
| 4 大田区ひきこもり支援室 SAPOTA | 16 障がい者団体など当事者団体 |
| 5 地域包括支援センター | 17 民間の社会福祉施設や社会福祉事業者 |
| 6 自治会・町会 | 18 医療機関 |
| 7 民生委員児童委員 | 19 シニアクラブ |
| 8 警察署 | 20 ボランティア・NPO団体 |
| 9 消防署 | 21 商店街 |
| 10 児童相談所 | 22 民間企業 |
| 11 保育園・児童館 | 23 その他() |
| 12 学校 | 24 特にない |

問16 問15の選択肢のうち、貴団体が地域の活動を発展させるため、今後連携・協力関係を深めたい団体や機関の番号をご記入ください。(いくつでも可)

4 地域福祉活動の活性化に必要なことについて

問17 貴団体の活動に参加する人を増やすためにはどのような工夫をすればよいと思いますか。(〇はいくつでも)

- 1 単発・短時間で参加できる機会をつくる
- 2 参加者の経験が活かせる機会をつくる
- 3 家族や友人・知人等と一緒に参加できる機会をつくる
- 4 活動者同士で対面しなくてもよい活動を増やす
- 5 活動内容の情報をわかりやすく発信する
- 6 つながりのある団体や機関に所属している人に声をかける
- 7 地域でのイベント等で協力を呼び掛ける
- 8 その他()
- 9 わからない

問18 地域のことについて話し合いができるような場があれば、貴団体は、参加したいと思いますか。(〇は1つ)

- 1 参加したい
- 2 参加できない・したくない
- 3 わからない

問19 大田区で活動している【地域福祉コーディネーター】を知っていますか。(〇は1つ)

- 1 連携して活動したことがある
- 2 知っていて連携できる間柄である
- 3 名前や活動内容等を知っている
- 4 名前だけは知っている
- 5 知らない

問20 今後、区が特に力を入れて取り組むべきことは次のうちどれだと思いますか。(〇はいくつでも)

- 1 区民が地域に関わるきっかけづくりの充実
- 2 地域で活動する人と人の交流の促進
- 3 区民や団体が地域で新たに福祉活動を始めるための支援
- 4 ユニバーサルデザインやバリアフリーの視点を踏まえた環境づくり
- 5 どの世代にも応じた支援体制の充実
- 6 複数の課題を抱えた人や世帯に対する相談体制の充実
- 7 地域住民同士で支えあう(助け合う)意識の醸成
- 8 福祉の専門的な人材の育成
- 9 福祉の関係機関や区内事業所等との区の連携強化
- 10 世代や文化、個人の価値観等の多様性を認め合う意識の醸成
- 11 その他()

問21 地域での支え合いや助け合いを推進していくには、どのようなことが必要だと思いますか。(自由に記入)

ご協力いただき誠にありがとうございました。

いただいたご意見は、次期大田区地域福祉計画の作成に活かしてまいります。

同封の返信用封筒(切手不要)に入れ、12月2日(金)までにご投函ください。

**大田区地域福祉計画
実態調査報告書**

令和5年3月発行

発行・編集

大田区役所福祉部福祉管理課
〒144-8621 大田区蒲田五丁目13番14号
03-5744-1721